

# 平成27年度 大川活用プロジェクト活動報告書

大川活用プロジェクト・第2ステージへの展開を探る



MISAKI LEAF

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科作成

美崎自治会、守山市、立命館守山中学校・高等学校、  
滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科、  
京都大学（生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所、  
地（知）の拠点事業：KYOTO 未来創造拠点整備事業－社会  
変革期を担う人材育成）



# 目次

## 第5回大川フォーラム開催にあたって

大川活用プロジェクト 美崎自治会 伊藤潔 …………… 1

## 第一部 活動報告

- 1 「夏休み大川自由研究室」の報告 大川自然博物館研究会代表…………… 3  
「夏休み大川自由研究室」に参加した感想 子ども代表…………… 9
- 2 大川の現状とヘドロの肥料化 立命館守山高等学校 Sci-Tec 部…………… 10
- 3 守山まるごと活性化 平成27年度の取組 守山市役所 地域振興課…………… 18

## 第二部 今後の展開に向けた各種報告

- 1 大川親水デッキのワークショップ結果報告…………… 23
- 2 大川親水デッキのワークショップ意見まとめ…………… 26
- 3 ウッドデッキ整備図面…………… 30
- 4 美崎オープンミュージアムプロジェクト 滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科…………… 33

## 第三部 提言

- 1 これからの大川活用プロジェクト 立命館大学 濱野さん…………… 57
- 2 大川・新川、そして、湖辺地域の魅力化に向けての提言  
立命館大学 八木先生、美崎公園 中村先生、美崎自治会 葎本さん…………… 59
- 3 ムクロジについて 商工会議所 松永さん…………… 62

## 巻末資料

- 1 美崎自治会 平成27年度取り組み計画…………… 64
- 2 美崎自治会 大川整備等の取り組み実績…………… 65
- 3 フォーラム アンケート用紙…………… 66
- 4 フォーラム アンケート結果まとめ…………… 67
- 5 水質データ…………… 69
- 6 夏休み大川自由研究室 体験教室記録帳 集約…………… 76
- 7 守山市 記者提供資料…………… 81
- 8 『美崎寄り合い』会議録…………… 82
- 9 第5回 大川フォーラム 開催要領…………… 92
- 10 第5回 大川フォーラム ちらし…………… 93

## 第5回大川フォーラム開催にあたって

第5回となる今回のフォーラムはテーマを「活用プロジェクト・第2ステージへの展開を探る」としました。

大川の取り組みは平成22年に始まります。大川に繁茂する水草を見かねまして自治会や守山市の職員の有志が除去に取り組んだことに始まります。翌23年には大学の社会貢献や地域研究に取り組んでおられた京都大学東南アジア研究所、滋賀県で唯一文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに選定されて研究フィールドを探しておられた立命館守山高校、河川管理者である守山市、そして地元美崎自治会の4者が「大川活用プロジェクト」を組織することになります。

プロジェクトでは結成早々に取り組み方針として「大川等整備の基本的考え方」を策定しました。大川の水質等の改善、河川敷や沿川の環境整備、オープンミュージアム構想の推進、周辺施設や企業との連携などがその内容です。以来5年を経過する中で必ずしも十分ではありませんがこれら方針について一定の成果が見えてきました。大川再生ゾーンとした大川上流部の整備は進み、沿川にはハナミズキの植樹を進めました。立命館高校には大川を活用いただいて様々な調査・研究を進めていただいております。夏休み大川自由研究室も3回の実績を重ねました。無論、多くの取り組み課題が残っていますが、最重要課題の水質改善については守山市で種々検討いただいているなど対策の具体化が方向付けられる段階になってきました。

一方、守山市においては市北部地域の活性化の手立ての一つとして大川河口部に親水性デッキの整備を計画されその利活用について周辺企業や地域の関係の皆さんも交えた議論がなされていること、また新川の河畔林の利活用について県立大学環境科学部環境建築デザイン学科の学生の皆さんによる研究が進められていること、さらには学区内でも地球市民の森での不断桜の植樹活動や美崎公園の活性化など新しい状況も生まれてきました。

こうしたことから、今回のフォーラムは「大川活用プロジェクト・第2ステージへの展開を探る」をテーマとして、ご参加いただいた皆さんも含め多くの方からご提言をいただきながら次の一步を探る機会としました。

大川活用プロジェクトは、学・教・行・地のメンバーが協働し、多様な関係者の参画を得ながら地域の課題、さらには地域創造に取り組むという他に例のみない活動です。プロジェクトの取り組みにご理解・ご支援をお願いします

大川活用プロジェクト 美崎自治会 伊藤潔



## 「夏休み大川自由研究室」の報告

大川自然博物館研究会代表

第5回 平成27年度大川フォーラム

# 夏休み大川自由研究室

平成28年1月30日

大川自然博物館研究会

### 研究会の概要

- 【団体名】 大川自然博物館研究会
- 【設立年月日】 平成25年5月1日
- 【構成会員】 会員 10名 役員 3名  
《その他ボランティア 約25名》
- 【活動場所】 準用河川大川流域一帯
- 【主な活動】 ◎自然博物館構想の研究・検討  
◎大川の自然資料の取りまとめと編纂  
◎児童・生徒を対象にした自由研究室の開催  
◎その他、地域の魅力化と活性化に資する事業の企画・検討
- 【過去の活動実績】 ◎夏休み大川自由研究室  
◎大川環境学習会  
◎『みさき百科』の発行



## 夏休み自由研究室の開催

※平成27年8月4日(火)3回目となる**夏休み大川自由研究室**を開催致しました。  
今回も美崎地区以外から大勢参加してくれ、60名を超える子ども達が例年の様に3グループに分れ、大川周辺の自然に触れ、それぞれに色々な体験学習に、夏休みの一日を有意義に楽しく過ごすことが出来ました。

### 研究室のプログラム

- 参加者の受付・オープニング
- グループに分れ体験学習
  - ①5・6年生のグループ-----漁船に乗って琵琶湖で漁業体験
  - ②3・4年生のグループ-----屋形船に乗って大川で魚獲りの体験
  - ③1・2年生と幼稚園児のグループ-----野菜畑で夏野菜の収穫体験
- 竹細工のおもちゃで遊ぶ・水槽の魚に触れる
- 楽しい昼食タイム(流しラーメン・川魚料理・夏野菜カレー)
- アジアの文化を学ぶ-----ミャンマーやブータンのダンスを踊る  
ミャンマーのお菓子の試食
- 赤・黄・緑の名札毎のグループに分れ今日の研究室のまとめ



## 夏休み大川自由研究室の様子

### ◎受付&オープニング

- 受付で赤・黄・緑の名札を受け取り、名前を記入する。  
(学年毎に各色を振り分ける)
- 今日の体験学習の資料と缶バッジを受け取る



オープニングセレモニー



名札に名前を書いてね!



体験学習の予備知識を学ぶ



今回は受付時に各学年毎に均等になる様、赤・黄・緑色の名札を配布しそれに名前をそれぞれに書いてもらいました。この名札の色分けについては、後ほど利用される事になります。また、この研究室への参加記念とし、缶バッジを手渡しました。オープニングセレモニーでは、今回体験学習に対する予備知識をパネルを掲示、解りやすく説明しました。これにより、子ども達がそれぞれの体験学習で、より理解出来たと思います。



◎琵琶湖で漁業体験 5・6年生のグループ **今年はエリ漁の体験！！**



漁船に乗って琵琶湖へ

本日の漁業体験の場「エリ」に到着

漁師さんから「エリ」の説明を聞く

エリ漁の開始

5・6年生グループの琵琶湖での漁業体験学習では、琵琶湖で伝統のエリ漁を体験する事が出来ました。みんな貴重な体験に興味深く・熱心に取り組んでいました。また、獲れた魚がほとんど外来種で改めて認識したようでした。

◎大川で屋形船に乗って魚獲りの体験 3・4年生のグループ



屋形船に乗って出発

色んな仕掛けを引き揚げる

外来種のカメ

あまり獲れなかったね

昔からの魚を獲る仕掛けの種類に興味を持った様だ。濁った大川に意外に多くの魚・エビがいた事に驚いていた。外来種のカメ（ミシシippiaアカミミガメ）の多さにも大変驚いたようだ。

夏野菜の収穫体験 1・2年生と幼稚園児のグループ



さあ！頑張って収穫



たくさん収穫して重い！



皆さんお疲れさま



野菜の収穫そのものが楽しかった様だ。  
みんな、野菜の多さ、スーパーではまず見れないその大きさにも驚いていた。  
帰りは、レジ袋の野菜の重さに耐えながら元気に歩いていました。

竹細工のおもちゃで遊ぶ・魚に触れる



竹トンボ 上手に飛ばせるかな？



水鉄砲遠くへ飛ばせ



撮った魚に触ってみました



今年もずいぶん前から用意してくれた、竹のおもちゃで暫し遊びました。竹トンボなどは前回よりはるかに上手に飛ばしていました  
今日獲った魚・エビや、水槽に用意してあった魚など目を輝かして触っていました。  
水鉄砲は小さな子ども達に大変人気でした。



### 楽しい昼食タイム



毎年大人気の流しソーメンに舌鼓



夏野菜カレーもあるよ



湖魚料理も美味しかった！



やはり、流しソーメンはみんなが一番楽しみにしていた様で、竹樋に群がっていました。今年もソーメンが一時、間に合わない程大人気でした。そのほか、湖魚の料理も短時間でなくなる程評判が良かった。小さい子ども達は自治館内で卓上流しソーメン機で楽しみました。また、夏野菜カレーもあり昼食タイムは満足していました。

### ミャンマーとブータンの文化を学ぶ

### 昼食後は座学



外国の挨拶の仕方を学ぶ



さあ！みんなでダンスを踊ろう！！



昼食後は自治会館二階で座学、これも大変人気の海外の文化を学びます。今年は、ミャンマーとブータンの人達から、挨拶の仕方やダンスを教えてもらいました。みんな、楽しそうに一生懸命踊っていました。また、ミャンマーのお菓子（ライスケーキ等）も頂きました。

### 今日の研究室のまとめ

朝もらった名札の色毎に3グループに分れる



体験学習の印象・友達に教えてあげたい事など書いてね!



さあ、一緒にまとめよう!



代表者が発表する

今日の研究室のまとめです、まず各自それぞれが体験した事で、今日参加出来なかったお友達に教えてあげたい事や、大川や琵琶湖また美崎地区の未来について書いてもらいました。

その後、朝受付時にもらった名札の色（赤・黄・緑）でグループに分れ5・6年生を中心にまとめます。

代表者がそれを発表してもらいました、アンケート結果や発表の内容は子ども達の視線でストレートで素直で、また鋭い観察力に関心しました。

## 今年の自由研究室を振り返って

- ◎今年も多くの子ども達が参加し、大川とその周辺の自然に触れ学ぶ機会を提供することが出来ました。
- ◎それぞれ色々な体験や収穫を楽しみ、大勢の人と振れ合う事ができた。
- ◎今回も外国の人達から、異文化と接し楽しく学ぶ事が出来た。
- ◎今年子ども達が、新たな取り組みとしてグループ毎に体験学習での印象や感じた事をまとめ発表しました。

### 今後も!

- 更に事業の内容を充実し、子ども達の成長に寄与し、夏休みの大きな思い出作りに努める。
- 地域の魅力を高め、活性化につなげる。



## 「夏休み大川自由研究室」に参加した感想



夏休み  
大川自由研究室  
にさがして。

大川自由研究室へ行って、私は琵琶湖が非常に危険な状態だということを知り、琵琶湖には外来種のブルーギル、ブラックバスなどが棲んでおり、琵琶湖の生態系に異常を来しているということを知り、これ以前に大川自由研究室が行われた時に教わっており、それだけでも充分大変な話だと思います。今回の場合はさらにこの2種だけに留まらず、ライギョやアカミミガメなどのまた別の外来種が幾つも入って来た訳ですから、琵琶湖の生態系は、正に水面下にて恐ろしいスピードで脅かされているという事になります。

一方、研究室に来て下さったブータンとミャンマーの人々は昔からの伝統的な歌やおどりをひろうしてくれました。これは昔から伝統を大事にしていかなくてはいけないという人がいたからこそ今も残っているのだと思います。しかし琵琶湖の生態系は良くありません。またこちらからひろうことができるような伝統的な

20×20

『大川自由研究室』  
☆夏休み大川自由研究室に参加して  
◎琵琶湖に出て感じたこと  
・漁船に乗って初めて魚を捕りました。  
中には琵琶湖でしかみられない魚も入っていて勉強になりました。  
◎自治会館で感じたこと  
・お昼ごはんをみんなで食べられて良かったし流しそうめんとかもおいしかったです。  
・外国人の方の交流もあり竹細工のおもちやあそびなどときには地域の方との交流もあり楽しかったです。

今回参加できなかった弟が「今年は参加できたらいいな」と言っていました。

↑  
福岡 紗英 さん

山田 智嗣 さん



↓  
ものも正直言って思いつきません。これは非常に残念な事です。先人達の努力を無駄にしていたことになるので、そういう意味で外来種の駆除活動がとても重要視されているので、小学生しょう。私は今年中学生になるので、小学生に向けたこの研究室に参加することはありません。ですがこれからは、様々な活動から学んだことをより多くの人に伝え、琵琶湖を昔のように戻したいと思うような人が増えれば自然と琵琶湖の環境は良くなっていくと思います。そんな人を増やしていくためにもこの大川自由研究室を何度も行ってほしいです。

20×20

## 大川の現状とヘドロの肥料化

立命館守山高等学校 Sci-Tech 部



これから、大川の現状とヘドロの肥料化についての報告をはじめます。  
今回は、水質とプランクトンの面から大川の現状について、また、大川の川底にたまっているヘドロの肥料化について報告します。



まず、大川の現状について報告します。



私たちは、この3地点で調査を行いました。  
琵琶湖に近い方から、下流、上流、源流とし、各地点で水環境について調査を行っています。  
今回は昨年秋の2015年10月17日と、今年冬の2016年1月9日の調査について報告します。



# 水質

では、水質調査の結果です。

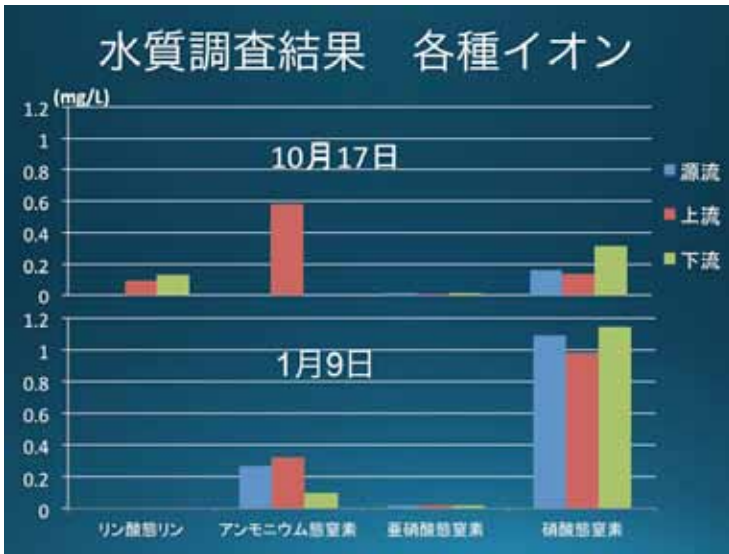


最初に、溶存酸素についてです。溶存酸素とは水中に溶けている酸素の量を表します。青色のグラフが昨年秋のもので、オレンジ色のグラフが今年冬のもので、2014年2月のデータが8.5mg/Lだったことと比較すると改善されていると言えそうです。なお、基準値はアユが住める溶存酸素量の目安で、それよりも多くなっています。

ただし、昨年秋の上流の値が極端に低かったのですが、他のデータとの検証により、還元的な環境であったことが分かっているので、間違った値ではないと考えられます。秋ではこのような状態が見られるので大きな課題と考えられます。



次に、CODについてです。CODとは化学的酸素要求量といい、CODの値が高いと水中の有機物の量が多く、水質はよくないといえます。グラフは先ほどと同様に青色が昨年秋、オレンジ色が今年冬のもので、昨年秋の値より今年冬の値の方が減少していることが見て取れます。なお黄色の基準値はアユが住める目安となるCODの値で、冬ではそれを下回っている地点が多くなっています。



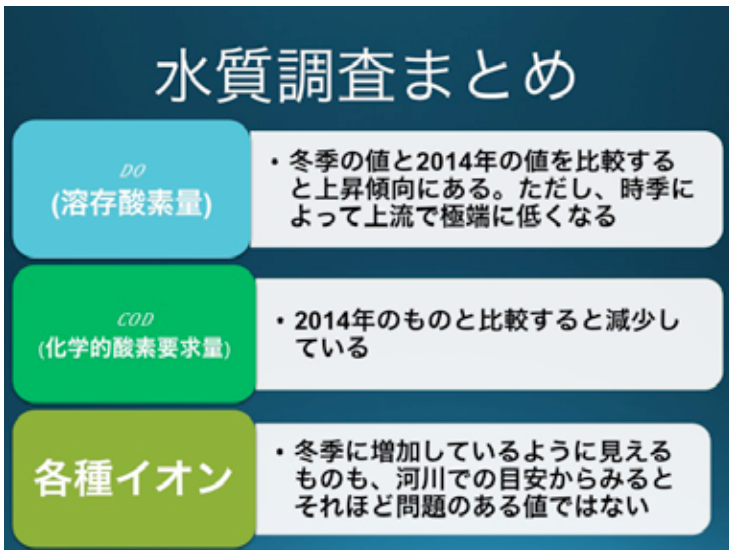
他に、富栄養化の原因になる、リン酸態リン、アンモニウム態窒素、亜硝酸態窒素、硝酸態窒素についても調査したので報告します。

上のグラフが昨年10月のもので、下のグラフが今年1月のものです。

また、源流、上流、下流をそれぞれ青、赤、緑で表しています。

今年の1月にリン酸態リンは検出されませんでした。

硝酸態窒素については5倍程度増加しているように見えますが、一般的な河川の基準値から見るとそれほど問題のある値ではありません。



最後に、水質調査のまとめです。

溶存酸素は2014年の値と比較すると上昇傾向にあり、CODについては減少傾向にあるので、全体的に改善傾向にあるのではないかと考えられます。ただし、上流の溶存酸素は時期によって極端に少なくなることがあり、要注意です。

また、その他のイオンについても、冬季に増加しているように見えるものもありますが、一般的な基準から考えると、それほど問題視する必要はないと考えられます。

今後も定期的に調査していく方針です。



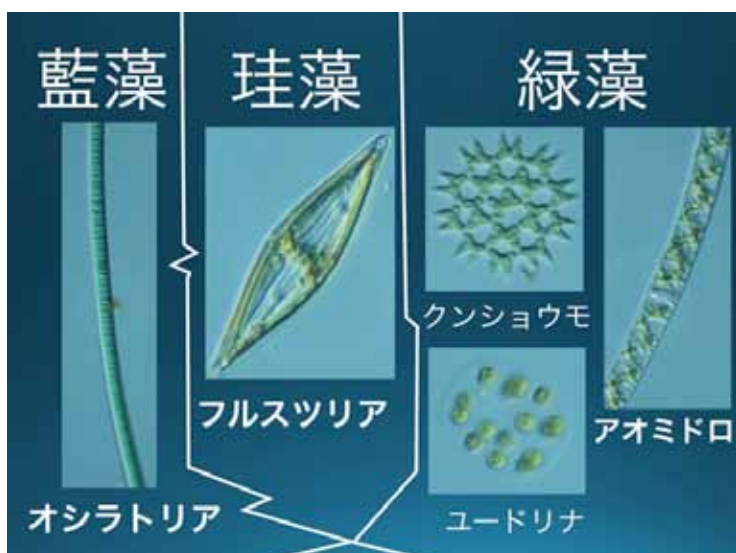
次はプランクトンです。



生物たちは食う・食われるという「食物連鎖」という関係でつながりあっています。その関係の根底を担うのがいわゆるプランクトンで、プランクトンの多様性がその場所の生態系の多様さに大きな影響を及ぼすのでプランクトンを調査することは非常に重要です。



プランクトンは植物プランクトンと動物プランクトンに区別できます。動物プランクトンは植物プランクトンを食べて生育するので、植物プランクトンのほうが動物プランクトンの量より多いのが理想の形です。今回の調査ではさらに詳しく、植物プランクトンを「藍藻」「珪藻」「鞭毛藻」「緑藻」、動物プランクトンを「原生動物」「ワムシ」「節足動物」に分けました。

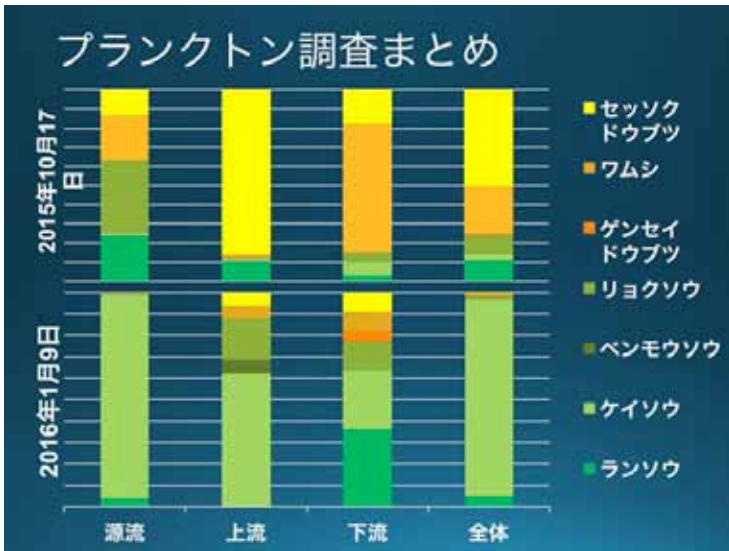


では実際にどのようなプランクトンがいたのかを説明していきます。2015年の10月17日、2016年1月9日の2回、採集を行いました。藍藻ではオシラトリア、珪藻ではフルスツリア、緑藻ではクンショウモ、アオミドロ、ユードリナ等が見られました。





ワムシではドロワムシやハネウデワムシ、節足動物ではゾウミジンコ、ケンミジンコ、ケンミジンコの幼生であるノープリウス幼生が見られました。鞭毛藻、原生動物はあまり見られませんでした。



2回の調査で見られたプランクトンの比率をまとめてみました。植物プランクトンは緑色、動物プランクトンはオレンジ色、黄色でまとめました。まずは上段の去年10月のデータを説明します。源流では植物プランクトン占める割合が多いですが、上流、下流、全体を見てみると、動物プランクトンの占める割合のほうが多いです。さっき言ったように植物プランクトンの多い方が理想なので10月の時点では生態系が不安定だったことがわかります。一方下段の今年1月のデータを見てみると、すべての地点において植物プランクトンの量が多いことがわかります。この植物プランクトンの正体は「珪藻」なのですが、珪藻は冬季から春季にかけて繁殖する傾向があるのでこの傾向に当てはまっていると考えられています。夏に多く見られた動物プランクトン厳密にいうと「ゾウミジンコ」「ハネウデワムシ」が秋に大量発生し、1月の調査ではほとんど見られなくなったのはまだ理由はわかりません。

プランクトン まとめ  
《種数》

'15年10月17日	
植物プランクトン	13種類
動物プランクトン	14種類
全体	27種類
'16年1月9日	
植物プランクトン	21種類
動物プランクトン	3種類
全体	24種類

2回の調査を比べてみると、動物プランクトンの種数は減り、植物プランクトンの種数は増え、全体の種数は減りました。



《個体数》

'15年10月17日	
植物プランクトン	117個体
動物プランクトン	372個体
全体	489個体

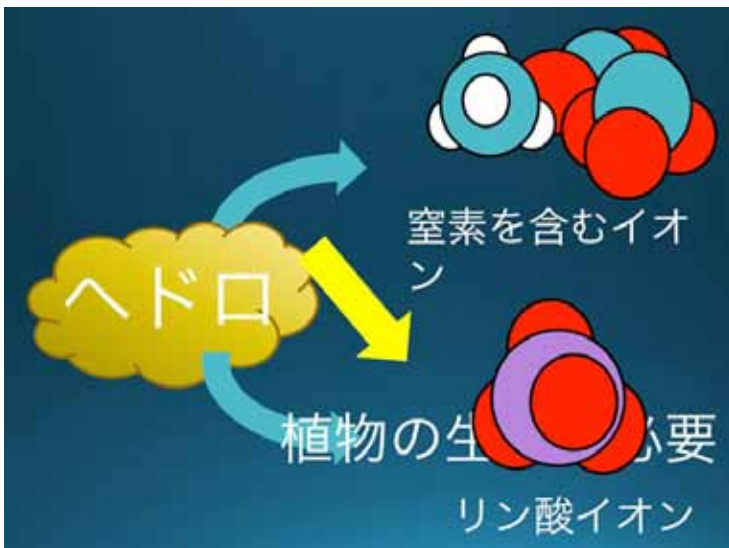
  

'16年1月9日	
植物プランクトン	527個体
動物プランクトン	9個体
全体	536個体

個体数で見ると、これも動物プランクトンの個体数は減り、植物プランクトンの個体数は増えました。全体の個体数は冬のほうが多かったです。今回調査した2回は季節も違うので、今後の傾向を見ていきたいと思います。

## ヘドロの肥料化実験

次にヘドロの肥料化実験について発表します。昨年度の発表で、ヘドロが大川の水質の悪化の主な原因と考えられるので、それを有効活用するために肥料として使えないかと提案しました。それについて、報告します。



では実際にどのようなプランクトンがいたのかを説明していきます。2015年の10月17日、2016年1月9日の2回、採集を行いました。藍藻ではオシラトリア、珪藻ではフルスツリア、緑藻ではクンショウモ、アオミドロ、ユードリナ等が見られました。



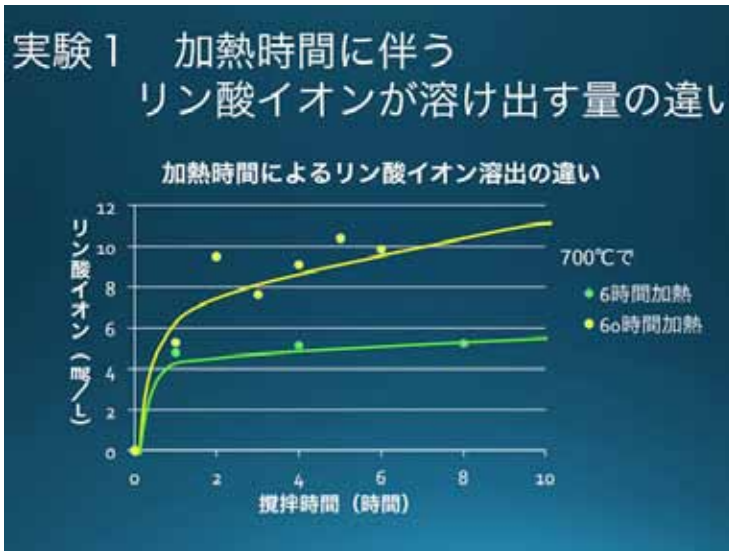
実験手順は

まず、採取したヘドロを乾燥させ、焼き固めます。上の写真は右がヘドロを乾燥させたもの、左がヘドロを乾燥させて焼き固めたものです。

次にそれぞれのヘドロを10グラムを粉々にし、490mlの水が入ったビーカーにそれぞれくわえて攪拌します。

下の写真はスターラーという装置を使って攪拌している様子です。

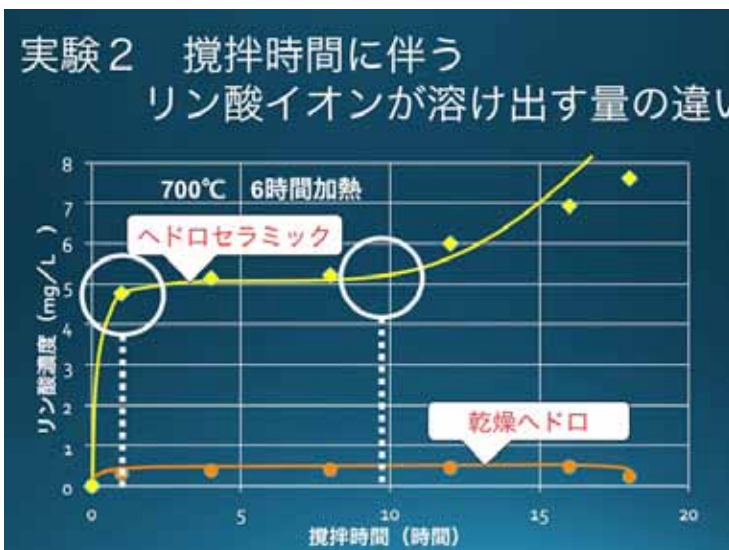
攪拌後、ろ過してきれいになった水の中に含まれているリンや窒素のイオン濃度を測定しました。



初めに加熱時間に伴うリン酸イオンが溶け出す量の違いの実験を報告します。

ヘドロセラミック(700°C加熱)を作る際の加熱時間を変えると、リン酸イオンの溶け出す量にどのような違いがあるのか検証しました。

結果は60時間加熱が6時間加熱よりリン酸イオンが溶け出していました



次に攪拌時間に伴うリン酸イオンが溶け出す量の違いを実験しました。

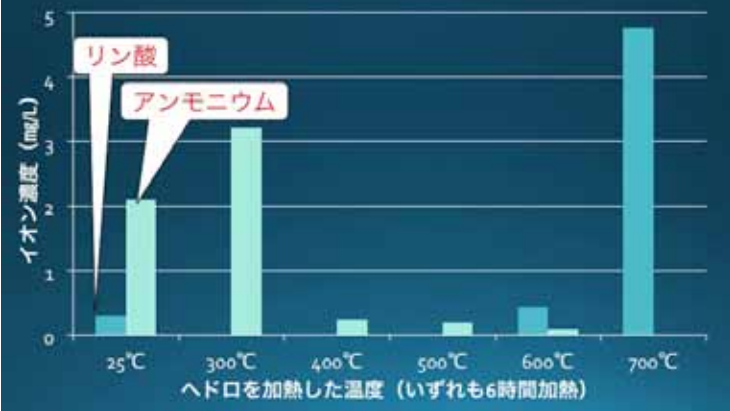
目的は乾燥ヘドロとヘドロセラミック(ヘドロを700°Cで加熱)において攪拌時間によって溶け出す量に変化があるのか検証しました。

結果は最初の1時間でどっと溶け出て、ヘドロセラミックの方が乾燥ヘドロの10倍以上溶け出す量が多かったです。

結果から私たちはヘドロからリン酸イオンが溶け出すには、700°Cの高温での加熱が必要であると考えました。

また、攪拌後8時間以降から再びリン酸が溶け出ており、それについては周りのpHの変化などが原因として考えられます。

### 実験3 加熱温度に伴う 各種イオンの溶け出す量の違い



このグラフは加熱温度による各種イオンの溶け出す量の違いについて示しています。

アンモニウムイオンは25度と300度でよく溶け出し、リン酸イオンは700度でよく溶け出しました。

なお、硝酸イオンの濃度も測定しましたが、いずれも検出できませんでした。

### 【ヘドロの肥料化実験のまとめ】

- ・リン酸イオンの溶け出す量はかくはん後1時間程で平衡に達する。
- ・リン酸イオンの溶け出す量を増やすには、長時間(60時間)の加熱が有効である。
- ・加熱温度を上げるとリン酸イオンの溶け出す量は増えるが、アンモニウムイオンは加熱温度を上げすぎると溶け出さなくなる。
- ・アンモニウムイオンの溶け出す量の多い300°Cのヘドロセラミックとリン酸イオンの溶け出す量が多い700°Cのヘドロセラミックを混合させ、肥料としての有用性の検討へ

それでは、ヘドロの肥料化実験のまとめです。

<スライドの通り>

ご清聴  
ありがとうございました

では実際にどのようなプランクトンがいたのかを説明していきます。2015年の10月17日、2016年1月9日の2回、採集を行いました。藍藻ではオシラトリア、珪藻ではフルスツリア、緑藻ではクンショウモ、アオミドロ、ユードリナ等が見られました。



## 守山まるごと活性化 平成27年度の取組

守山市役所 地域振興課



守山市役所地域振興課より、現在取り組んでいただいている「守山まるごと活性化」の取組について報告させていただきます。

### \* 守山まるごと活性化とは

「住みやすさ日本一」が実感できる守山の実現をめざし、地域の歴史・自然・生活等の地域資源“たからもの”を活かす魅力的なまちづくりの取組みです。

#### 市内7学区、31プロジェクト

平成25年に地域の人たちが主体となり、市内にある7学区すべてで話し合いが行われ、各地域の活性化に必要な指針として『守山まるごと活性化プラン』が策定されました。昨年平成26年度から、実際に具体的な取組の検討や活動が始まっており、住民手づくりによるまちづくりの活動が行われています。

現在、守山市では「守山まるごと活性化」の取り組みを推進しております。

まずは、この守山まるごと活性化とはどういったものなのかを説明させていただきたいと思います。

いつも地域の皆様にはまちづくりに関しまして、何かとお力添えをいただきまして誠にありがとうございます。

「守山まるごと活性化プラン」とは、市内7学区がそれぞれの地域を活性化するためのまちづくりの方針や具体策をまとめたものです。

平成26年度から地域の皆さま主導で、それぞれの学区で計31プロジェクトによる取り組みがスタートしています。目的としては、住みやすさと活力を兼ね備えた「住みやすさ日本一」が感じられるまちを目指しています。

そのためには、ないものねだりではなく、地域の歴史・自然・生活等の地域資源“たからもの”を活かすことを大切にしているということが非常に特徴的などころです。

### \* 「守山まるごと活性化プラン」策定の流れ

- 第1回 プラン作りの意義、学区別会議での検討の進め方
- 第2回 地域の特徴「地域のたからもの」掘り起し
- 第3回 まちづくりの課題抽出、まちづくりの方針の検討
- 第4回 まちづくりの具体的な取組のアイデア出し
- 第5回 まちづくりのテーマと取組の実現方法の検討
- 第6回 プラン案の確認、具体化に向けた課題

その「守山まるごと活性化プラン」の策定に至るまでの流れですが、

このプラン策定には、まずは地域の人々を主体とする検討組織「守山まるごと活性化プラン検討委員会」を立ち上げ、そのなかに「学区別会議」および「全体会議」を設置しました。学区別会議については、各学区30名程度の委員で構成し、それぞれの学区で6回ずつ開催され、全体会議については、23名の委員で構成し、計4回開催されました。

いずれにしても、まちに関わるより多くの皆さんの検討と確認を得ながら策定してまいりました。

そんななか、まずは「守山まるごと活性化プラン」の意義の徹底や会議の進め方の検討から始まり、自分の地域の“たからもの”や課題を明確化し、自分の学区の方向性（テーマ）を決めるなか、5つ程度のプロジェクトに絞り込み、まずは5年間で優先して推進していく取組をプランとしてまとめていただきました。





こちらは、市内7学区における、プランに挙げられているプロジェクトの代表される取組をキーワードとして挙げさせていただきます。

守山学区は、「自治会の魅力向上」、「守山の歴史文化再発見」、「水とホタル」、「JR東側活性化」

吉身学区は、「中山道観光促進」、「歴史伝統をつなぐ」、「祭りだ！わっしょい」、「ホタルを守る」

小津学区は、「新守山川」、「小津の文化再発見」、「農からはじまるお付き合い」

玉津学区は、「諏訪屋敷」、「ホタル・イベント」、「食の地産地消」、「赤野井湾再生」

河西学区は、「水辺空間 満喫」、「近江妙蓮活用」、「みんなで作る「つながる」」

速野学区は、「守山北の玄関」、「速野まるごと博物館」、「びわこ地球市民の森」、「ふるさとの文化」、「大川」、「みんなで作る未来」

中洲学区は、「伏流水再生」、「公共交通」、「にぎわい活力創出」、「農業を元気に」

をキーワードにそれぞれ取り組んでいただいております。

### \*速野学区まるごと活性化

受け継いできた自然・風土と未来を見つめる人が主役のまち  
～守山北の玄関速野まるごと博物館～

<p><b>A</b> 守山の北の玄関おもてなしプロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幹線道路沿いに情報発信の要所を整備（道の駅等）</li> <li>2. 速野の人々が自治会を代表する情報発信の窓口にする</li> </ol>	<p><b>D</b> 大川周辺の自然環境保全 &amp; 環境学習推進プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大川の水質改善と周辺の自然環境保全</li> <li>2. 大川と周辺の自然を利用した環境学習プログラムの作成</li> <li>3. 地域の歴史を地域の人が学び伝える環境づくり</li> </ol>
<p><b>B</b> (仮称) 速野まるごと博物館プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. (仮称) 速野まるごと博物館マップ・パンフレットの作成</li> <li>2. (仮称) 速野まるごと博物館回遊ルートの設定</li> <li>3. 環境学習を推進、実践する地域の組織、人材づくり</li> </ol>	<p><b>E</b> みんなで作る速野の未来プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未来づくり協議の見直しと次代のリーダー育成</li> <li>2. 地域の気風を継承しつつみんなで作る将来ビジョン</li> <li>3. 安全・安心な環境づくりをテーマとしたまちづくり活動</li> </ol>
<p><b>C</b> びわこ地球市民の森いきいきプロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の入々の自然的な楽しさと安心の場づくり</li> <li>2. 地域の人々の親睦交流の場づくり</li> <li>3. 地域からの家族を呼び込むイベント開催</li> </ol>	<p><b>F</b> ふるさとの文化を見つめなおし守ろうプロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歴史的な村からの再発見を推進</li> <li>2. 歴史の語り部の養成・育成と活躍の場創出</li> <li>3. 地域の歴史を地域の人が学び伝える環境づくり</li> </ol>

そのなかで、ここ速野学区でのまるごと活性化について説明させていただきます。

こちらが、速野学区の皆さんが検討されたプランとなっております。

ごらんのように、速野学区では、大きなテーマとして、「受け継いできた自然・風土と未来を見つめる人が主役のまち」～守山北の玄関速野まるごと博物館～を挙げられており、

AからFまでの6つのプロジェクトが計画されております。

### \*守山の北の玄関おもてなしプロジェクト

- ★親子サイクリング大会の開催
- ★企業と連携したおもてなし横断幕作成の検討
- ★おもてなし花壇設置の検討
- ★サイクリングマップの作成

**A**

それぞれのプロジェクトについては、ご覧のとおりでありまして、

まずは、Aの「守山の北の玄関おもてなしプロジェクト」では、サイクリングマップやサイクリングイベントの開催、おもてなし花壇設置の検討など、北の玄関口として相応しい形となるよう取り組んでいただいております。



次に、Bの「(仮称) 速野まるごと博物館プロジェクト」では、速野学区全体をオープンミュージアムと見立てて、マップ作成や、実際に歩いてみる歩こう会を開催されております。



次に、Cの「びわこ地球市民の森いきいきプロジェクト」では、速野学区の中心に位置する「地球市民の森」をより活用し、交流の拠点とするよう平成26年度から、速野学区民のつどいの開催会場とするなどに取り組んでいただいております。



次に、Dの「大川周辺の自然環境保全&環境学習推進プロジェクト」では、当プロジェクト中心にここ大川を舞台として、「夏休み大川自由研究室」やムクロジの植樹、また行政事業として現在整備しているウッドデッキの利活用の検討などに取り組んでいただいております。



## \* ふるさとの文化を見つめなおし 守ろうプロジェクト

- ★ 私たちの速野まちづくり絵本制作の検討
- ★ 地元の語り部による「ふるさと紹介のつどい」の開催
- ★ 「これからの速野」ナレーション作成の検討

次に、Eの「ふるさとの文化を見つめなおし守ろうプロジェクト」では、後世に文化を継承していこうと、昔の映像にナレーションをいれたり、地域住民の手作り絵本の作成に取り組んでいただいております。

## \* みんなで考えよう速野の未来 プロジェクト

- ★ 広報紙の発行
- ★ 学区民のつどいでまると活性化の取組み発表

次に、Fの「みんなで考えよう速野の未来プロジェクト」では、世代間交流の希薄化などを解消すべく、現在は、広報紙などによる「情報発信」に注力され取り組んでいただいております。

## \* 大川プロジェクト

社会や生活の変化による人との関わりの希薄化、野洲川改修による水質悪化等、大川をとりまく環境は大きく変容しました。

大川の持つ「**景観**」「**水質**」「**生物環境**」等多様な側面から地域の中での大川の役割を再評価し、「里川」としての価値、地域資源を活用したまちづくりの検討を「大川プロジェクト」として平成23年度より官・学・民が連携し、進めています。

【構成団体】

- 美崎自治会
- 立命館守山中学校・高等学校
- 京都大学
- 守山市

こちらは、Dプロジェクトに属しております当プロジェクトですが、大川の持つ「景観」「水質」「生物環境」等の多様な側面から地域の中での大川の役割を再評価し、大川を舞台に地域資源を活用したまちづくりに、守山まると活性化に先駆けて、平成23年度より美崎自治会、立命館守山中学校・高等学校、京都大学、守山市の官・学・民が連携し、月に1回の寄り合いをはじめ取り組んでいただいております。



### \* 大川河口部 ウッドデッキの整備

「準用河川大川水辺環境整備事業」として平成27年から2か年間でウッドデッキ遊歩道整備を実施します。

**\* ワークショップ**

1回目 平成27年11月21日(土)  
2回目 平成28年1月23日(土)

ウッドデッキの利活用について、学生と地域のみなさん、企業の方々や市職員が集まり、ワークショップを行いました。



さらに、大川プロジェクトのなかで策定された「大川未来予想図」をもとに、行政事業として、大川河口部に「ウッドデッキ」を平成27年度から2年間で掛けて整備することとなり、現在、整備後の利活用をこれまで2回にわたり、学生と地域のみなさん、企業の方々や市職員が集まりワークショップを行っていただいております。

### \* 美崎線通学路整備事業

美崎線の通学路整備にあわせて、大川（地球市民の森）へ導水し、水質改善を図っていきます。

詳細の設計には、本年度図、黄色丸の部分に着手しました。\*現在設計途中

平成26年度	予備設計
平成27年度	] 詳細設計
平成28年度	



また、あわせて、大川プロジェクトの当初からいわれている水質改善につきましては、大川に水の流れないことが原因の一つと考えられており、その大川への導水の設計を平成27・28年度にかけて詳細設計を行い、実現に向けて取り組んでおります。

第1回 大川ウッドデッキの有効活用と湖辺地域の魅力を考えるワークショップ

●開催日時 平成27年11月21日(土) 13:30~16:00

●場所 ラフォーレ琵琶湖2階研修室

●参加者 34名(地元自治会、滋賀県立大学、立命館守山高校関係者、地域事業所、関係団体)

●内容

1. 開会あいさつ…美崎自治会長 伊藤 潔 氏

大川プロジェクトの展開状況および平成29年3月完成予定のウッドデッキの利活用アイデアや管理面、課題について供用開始までに一定の対応策を整えるための意見、情報交換の機会として設定した趣旨を申し上げる。

市長あいさつ…守山市長 宮本 和宏 氏

参集お礼、地域関係者の方々への協力お礼、守山市北部湖岸地域での事業展開の状況(ウッドデッキの設置工事「準用河川大川水辺環境整備事業」をはじめ、公共、民間とも積極的な取り組みに努めている状況)が伝えられる。

2. 基調報告

「ウッドデッキの利活用と周辺の魅力化について」

…三菱UFJリサーチ&コンサルティング 主任研究員 藤原 誠二 氏

守山市湖岸地域の魅力性とポテンシャルについて解析

3. 取組報告

「守山まるごと活性化および大川プロジェクトの経緯等について」…守山市 地域振興課

守山活性化プラン(H25年度策定)の中での大川プロジェクト位置づけと、プラン全体進捗状況および速野学区の取り組み状況等の解説

4. ウッドデッキの設置工事「準用河川大川水辺環境整備事業」の状況説明 …守山市 地域振興課

設計経過、設計概要、工事予定等説明

5. グループ別意見交換

コーディネーター 京都大学 東南アジア研究所 安藤 和雄 先生

① 地域づくりグループ 藤原氏他、地元役員等

② 若者グループ 大学、高校関係者

③ 地域産業活性化グループ 事業所、商工観光関係者

④ 地元グループ×2グループ 地元自治会関係者

グループごとに分かれてワークショップに臨む

グループごとに出された意見を系統別に分類し、交わされたアイデアや課題などを発表する。

意見の分類(系統)

① デッキを活かす魅力的なイベントの提案

② デッキを活用する上での条件・課題

③ 北部地域での状況とのこらば

④ デッキの維持管理

※個々の意見は、大1回ウッドデッキワークショップ意見まとめ一覧表に記載

6. ワークショップ総括

第2回目ワークショップを開催し、本日、出されたアイデアや課題、意見を深めることとなる。

第2回 大川ウッドデッキの有効活用と湖辺地域の魅力を考えるワークショップ

●開催日時 平成28年1月23日(土) 13:30~16:00

●場所 美崎自治会館2階大会議室

●参加者 32名(地元自治会、事業者、大学等より)

●内容

1. 第1回ワークショップの報告

2. 「大川水辺環境整備工事」についての説明

3. 意見交換ワークショップ

①検討したいテーマに分かれる

1班: デッキを活かす魅力的なイベントの提案      2班: デッキを活用する上での条件・課題

3-1班、3-2班: 北部地域での状況とのコラボ      4班: デッキの維持管理

②個人で意見を考え、付箋に記入する

意見には優先順位をつける(優先度の高い順に赤、青、黄、緑の付箋に記入する)

③班のメンバーでそれぞれの意見を共有し、模造紙に付箋を貼って意見をとりまとめる

④班ごとに発表する

4. 班ごとの意見まとめ

▽1班(デッキを活かす魅力的なイベントの提案)

- ・朝市、農産物の収穫祭、夏まつり、イルミネーション、水上ガーデンなどを行う
- ・年に1回は大きいイベントを実施する
- ・SNSを利用してイベントの情報発信をする

▽2班(デッキを活用する上での条件・課題)

- ・水質改善、水辺環境や周辺施設(トイレ、駐車場)の整備が必要
- ・デッキそのものや、イベント運営時の安全管理が必要
- ・美崎地域全体の中で、デッキをどう位置づけるか検討が必要

▽3-1班(北部地域での状況とのコラボ)

- ・食を体感できる道の駅をつくる
- ・記念撮影スポットとなるような風景、景観をつくる
- ・自然を体感できる遊び場として活用する
- ・イベントを企画・実施する推進体制を構築する

▽3-2班(北部地域での状況とのコラボ)

- ・ピワイチと連携した道の駅をつくる  
(美崎ブランドの野菜を作って販売する、温浴施設を作る)

▽4班(デッキの維持管理)

- ・草木の管理が必要
- ・予約受付や料金徴収を行う
- ・利用者へのマナー啓発を行う
- ・イベントのPRを継続して行う



大川ウッドデッキの有効活用と湖辺地域の魅力を考えるワークショップの今後の展開

2回実施したワークショップで得られた意見や課題を整理し、今後の管理運営、活用について現実的な取り組み方針や具体策について明確にする必要がある。

そのため、市民会議的な検討会組織（下記の案）をスタートさせることとする。

（案）

（仮）大川ウッドデッキの利活用を考える市民会議  
設置運営の基本的な考え方

1. 目的

この会議は、準用河川大川に整備される親水性デッキ（以下、デッキという）の有効な利活用や適正な管理方策を提案することを目的にする。

2. 会議の構成員

- ① 会議は、上記の目的に賛同する者と守山市の関係職員で構成する。
- ② 会議は、当面別記の者（名簿構成中）で構成する。

3. 会議のテーマ

回議は、当面次のテーマを予定する。

- ① デッキの名称（呼称・愛称）
- ② 利活用の基本的な考え方と提案
- ③ 竣工記念イベントの提案
- ④ 利活用の基本条件
- ⑤ 管理の方策
- ⑥ その他、上記の目的に達成するために必要な事項

4. スケジュール

平成27年度に構成し、数回の会議を経て、必要な事項について調整を図りながら平成28年9月頃には各テーマについて集約、提案を行う予定

第1回 大川ウッドデッキワークショップ意見まとめ

	【1】デッキを活かす魅力的なイベントの提案	【2】デッキを活用する上での条件・課題	【3】北部地域での状況とのコラボ	【4】デッキの維持管理
① 地域づくり	夏祭り 1 記念撮影 サイクルステーション(サイクルスタンドの設置)デッキを背景に記念撮影 2 ヨガ等床体操(デッキ) 3 美観をテーマにした写真コンテスト インハウンを含めたPR動画づくり観光拠点として 農産物の朝市 舟で運んでくる(いも)の開催 おうちから通ったお祭り 水上ステーション 親子向け釣り大会	船の活用(水上市歴形船の観覧席) 1 船着き場 2 3 課題 観覧ゾーンが狭い 課題 車の音が大きく静かな空間ができない 水の浄化 何と言っても水に頼んでもらうためにはそこそこキレイな水でないといけない 今後、水質を改善し透明度が高くなると考えて、水中生物・植物の採子を観察できる双眼鏡を設置し環境学習に利用したり 1 ヘドロを除去し、水質を改善させて子どもたちが水にじゃしゃべりやは入って遊んで入れるような拠点としての活用(水遊びの開催が必要)車生ノートの活用との兼ね合いもありそうですが、そういったことができる川にしていければと思います。	ホテルを素材にした観覧づくり 1 2 3 大川の、プロローグ(橋)として ピワイチのチェックポイント的機能を備えるカフェ等 ウッドデッキのPRのライブアップ 夏の涼を求めて屋台を出す デッキにベンチを置いてカフェをひらく ピワイチサイクルステーション(サイクルリストが少し休む場所) 地域の特産物などを食べながら、湖上アターやボートの観覧などを行う	1 2 3 その他
	2 若者グループ 1 湖上ナイトアター(夜間映画上映) ボートの観覧 ボート、カヌーなどの競争の観戦と周面で屋台などを出す 琵琶湖漁市(マルシェ)水上レストラン、寿司屋 小学生などを対象とした農産物の出売会などの雑芝居などを行う(農家が盛んな守山市で小学生に興味を持ってもらいたい) 2 音楽会 若者男女、特に子どもたちが参加できるイベントとして音楽会は難題、中学校のグラウンドの演奏なんかもあり。 地域の伝統工芸や文化などを集めるイベントを定期開催する	1 2 3 その他	1 2 3 その他	1 2 3 その他
	3 若者グループ 1 トロロンを盛ったフィールドウォッチングや工作競技 水上ライブ 水遊び(水泳など) 水上デッキを観覧席として利用し子どもの水遊びや水泳教室などに利用する 2 3	1 2 3 その他	1 2 3 その他	1 2 3 その他
② 若者グループ	1 アニマルカラオケ(アニマルのカラオケ) 2 星空観望会	水質改善をどかかしたいのテンションですめていくか。地道な研究をベースにやるのかラフな的にやってみるか? デッキの利用は誰? まずは地元住民であるべき。住民が喜んで利用したずと自分ずと人は集まる 湖岸道路を綺麗にしたいように(ネットワーク強化) 1 水質浄化が必要	1 2 3 その他	1 2 3 その他

③ 地域産業活性化グループ	④ 地元グループ	⑤ 地元グループ	⑥ 地元グループ
<p>水上での楽しみ方(ボートなど)などを具体化させる必要あり一市民参加型で活用を考える</p> <p>2 地元利用者を軸に考えればデッキの設置位置はもつと住宅寄り もつと湖前で大川の中にすべくたつたのではない</p> <p>3 休泊場所として活用するには食べ物等を提供する管理棟が必要</p> <p>デッキだけでは機能しない、連携する施設やランドデザインをばつくりさせる</p> <p>多くの利用者を期待する為には車でのアプローチが大切、番号が無いと安全な母人進出は無理</p> <p>3 水質浄化を早急に進める(区域ごと)</p> <p>最大収容人数は、どのくらいが可能なのか(想定のうち活用数を検討すべき)</p> <p>考案(新しい道路)からラフォーレの商標をアクセスする新しい道路が必要(周辺道路の接続等も検討が必要がある)</p> <p>その他</p>	<p>1 水面が活きるイベントを開催(薪火、観月の宴...)</p> <p>季節によってイルミネーションでデッキ道をかざりたい</p> <p>青少年が活用できるイベント 例:写生大会</p> <p>2 子どもと共に写生大会 年に何回か(街内の行事として)</p> <p>デッキを利用した芸術展示はどうか</p> <p>舞台で発表の場ができるように、集、幼、小、中、高、一般、飛び込み台として利用してはどうか</p> <p>3 老人会、敬老会等のお食事会</p> <p>その他</p>	<p>1 地元を中心にイベントを考えてほしい(子供が参加できるもの)</p> <p>水鳥観察</p> <p>花火大会 打ち上げやなく手打ち花火で</p> <p>2 江州常陸大寺 滋賀県の道頭が集まって広場では盆踊りを...</p> <p>自治会等団体のアトラクション行書く例えば水上の音楽会等、写真撮影会 ウォーキングのコースに指定</p> <p>観桜、観月</p> <p>3 「地域イベントの定期開催エリア」として活用 大川IPJの取組みの中で環境学協会や水質調査で活用する</p> <p>未来へ通じるイベント(春、現在、未来)</p> <p>野外守山市民文化芸術祭 歌や和太鼓やいろいろな芸を見てもらう</p> <p>四季の樹木展示会 春が梅花、夏は朝顔、秋は菊、紅葉、冬は?</p> <p>その他</p>	<p>水上での楽しみ方(ボートなど)などを具体化させる必要あり一市民参加型で活用を考える</p> <p>2 地元利用者を軸に考えればデッキの設置位置はもつと住宅寄り もつと湖前で大川の中にすべくたつたのではない</p> <p>3 休泊場所として活用するには食べ物等を提供する管理棟が必要</p> <p>デッキだけでは機能しない、連携する施設やランドデザインをばつくりさせる</p> <p>多くの利用者を期待する為には車でのアプローチが大切、番号が無いと安全な母人進出は無理</p> <p>3 水質浄化を早急に進める(区域ごと)</p> <p>最大収容人数は、どのくらいが可能なのか(想定のうち活用数を検討すべき)</p> <p>考案(新しい道路)からラフォーレの商標をアクセスする新しい道路が必要(周辺道路の接続等も検討が必要がある)</p> <p>その他</p> <p>1 周辺と連携し四季のお花が観賞できる様(お花の屋を作る)</p> <p>2 一帯を子どもの健全な育ちを支える場にするーデッキは水環境学習の機会に活用</p> <p>3 トイレも近くに設けるように</p> <p>課題 湖岸(なぎさ)とデッキを結ぶ導線(横断道)が必要</p> <p>車の花畑への導線のため信号機設置</p> <p>歩道を広く取る必要があるのでは</p> <p>デッキのサイズで線装があつてもよいように見るのか</p> <p>課題 トイレ、駐車場等の附属施設の整備が必要</p> <p>デッキ利用にあたり、整備</p> <p>駐車場など周辺に欲しい</p> <p>デッキ建設と併せて導線整備も併せて実施、まず、駐車場整備、道路整備、堤防(川添の擁壁)</p> <p>デッキ活用について、夢のあるイメージを付ける事、四季テーマを設けてイベント活用(自然、草、花などで文化活動)</p> <p>子どもが水面に触れる場所がない!</p> <p>河口部ゾーンを歩けるように整備する</p> <p>水質浄化 大川下流のため池に水運などを組み立てほしい</p> <p>2 通行車両へのアピール デッキの高さを湖周道路と同じかかしてほしい(設計済みが良いが、集客にも繋がる)</p> <p>3 和の音楽をながしたデッキ(心のゆとり)</p> <p>その他</p> <p>デッキ建設時に大川一帯をせきとめる一帯の掘削、湖周道路との水を通してはどうか</p> <p>管理の問題、駐車場の問題、川自体の浄化問題、周辺整備(観賞、温泉等)</p>
<p>大川、新川沿いに、お店を並べて回遊を図る</p> <p>2 ピワイチ(サイクリング)の方々の簡易休憩施設 道の駅の自転車用の食事が出来、温泉などホテルの新生息地にし乱舞しているのをデッキから眺める ホテルのいない時は新spotとする</p> <p>3 (水質改善後は)水質もみえるアクティブティである</p> <p>夏、花火、冬、クリスマスイルミネーション 名物テートスポットに</p> <p>みさき公園水泳場と遊歩道をつなぎ、浜でイベントを行う(白浜知良浜のような)</p> <p>その他</p> <p>(徳人の聖地)イルミネーション</p>	<p>1 水花が咲いていたらいなあ 色鮮、魚にエサを親子であげたいいなあ</p> <p>長く続ける工夫</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>課題 デッキの日常的な管理方針が必要、釣り客による環境悪化が心配。</p> <p>管理するための事務所を設置</p> <p>夕方でも釣りがつくように</p> <p>電気設備等照明</p> <p>川原が見えるデッキ(大川の浄化)</p>	<p>1 観光記念のスタンプ等を作る</p> <p>2 舟遊びの資源(但し、ボート等の設置が出来てから)</p> <p>3 大川散策デッキ(大川再生ゾーンから一連につながるウォーキング活用) 温泉も活用したデッキ</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>舟が止められる場所をつくる</p> <p>和の音楽をながしたデッキ(心のゆとり)</p> <p>その他</p> <p>「その他の活用(湖岸沿いの休憩エリア、野鳥等の自然観察で利用、近くの幼稚園、小中学校で自然観察等)の利用</p> <p>公共交通の充実、バスの運行を多くし、四季に於じた近隣の施設を連携させる。</p>	<p>ウッドデッキは普段釣りに使用されることが多くなること为核心、木浜釣り公園と同じになる</p> <p>その他</p> <p>1 水花が咲いていたらいなあ 色鮮、魚にエサを親子であげたいいなあ</p> <p>長く続ける工夫</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>課題 デッキの日常的な管理方針が必要、釣り客による環境悪化が心配。</p> <p>管理するための事務所を設置</p> <p>夕方でも釣りがつくように</p> <p>電気設備等照明</p> <p>川原が見えるデッキ(大川の浄化)</p> <p>1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>舟が止められる場所をつくる</p> <p>和の音楽をながしたデッキ(心のゆとり)</p> <p>その他</p> <p>「その他の活用(湖岸沿いの休憩エリア、野鳥等の自然観察で利用、近くの幼稚園、小中学校で自然観察等)の利用</p> <p>公共交通の充実、バスの運行を多くし、四季に於じた近隣の施設を連携させる。</p>



第2回 大川ウッドデッキワークショップ意見まとめ



【1】デッキを活かすイベントについて

夏祭り		市・収穫祭		灯籠		施設(トイレ、車)		その他					
属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性				
①夏祭り ・盆踊り ・食べもの(おでん、とりからあげ等)	女 70代 美崎	1	農産物の朝市、場所、時間設定	女 60代 美崎	2	「竹灯籠のイベント」 +フォトコンテスト、WEBページ、立命館大のボランティア、オープンミュージアムの竹やぶを活用	男 10代 京都	1	デッキをみんなで(近くの者が)利用をする。そうしたら遠いところからも人が集まる	女 70代 美崎	1	展示会 子どもの絵、地域の人の作品	女 70代 美崎
・夏祭り等 ・プラスチックバンド ・踊りの集団	女 80代 美崎	2	・メロン収穫祭 ・農産物の朝市 →作られた人たちが持ってきて活気を出す	女 70代 美崎	4	「おまん灯ろう祭り」 →おまん灯ろうの場所と離れているけど… 伝説にちなんで、タライに乗るイベントがあってもおもしろい	女 30代 木浜	2	車でのアプローチが大切。事故のないように安全面、イベント等がある時は車を誘導する人を置く	女 美崎	1	ピワイチ、サイクリング利用者の記念撮影会 →サイクルスタンドの設置が必要	女 30代 木浜
夏祭り 太鼓集団	女 80代 美崎	2	守山メロンや守山いちごの収穫祭(スイーツ等の試食会)→農産物の収穫期以外はどうするか?	女 30代 木浜	3			3	トイレも作ってもらいたい	女 70代 美崎	3	能舞台としての活用(月見籠のイベントなら貴重だと思う) →客席を舟上にすれば観客席は確保できる	女 30代 木浜
夏祭り フェスティバル	女 80代 美崎	3	・水上市(舟上)の開催 ・ステージでの朝市→船の確保	女 30代 木浜	4			4	駐車場/駐輪場、信号機(子どものために)、横断機、トイレ、授乳室	女 70代 美崎		・ステージだけでなく通路も使って親子向けの釣り大会、釣った魚の調理体験	女 30代 木浜
・プラスチックバンドの演奏 ・星空観望会(地域の方の得意領域)	男 10代 京都	4	・カフェをひらく 誰でも散歩がてらに行ける一休みするところ	女 70代 美崎									
雰囲気(外部から人を呼ぶ)		SNS		水		ルール							
属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性						
・水上ガーデン ウッドデッキで囲われている河川のところにハスの花を植える	男 10代 京都	3	SNSアカウントでPR(立命館の大学生でやります)もう始めています。	男 10代 京都	1	水質をきれいにしたらホテルが生育すると思う。地域が一斉掃除を心がけるようにしたいと思う。	女 60代 美崎	2	デッキの使用時間の制限(例えば、若者が夜中まで火火をすること)	女 70代 美崎			
イルミネーション 市街の方々が寄ってくるような魅力的な、電気代が安くなるように工夫を	女 60代 美崎	3		2	2	「水をきれいに」を第一にすること	女 70代 美崎						
				3	3	清掃作業の完備	女 80代 美崎						

【2】デッキを使用する上での条件・課題について

安全管理		水質・水辺環境整備		駐車場・トイレ		広報・PR		全体デザイン・位置づけ・ネーミング					
属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性				
デッキの管理係(掃除・使用者管理・その他)を誰が担当するか。自動努力でできる計画を立てる。	男 30代 彦根	1	・水質の浄化、ヘドロ除去 有志を集め、継続して(大事)取り組む ・小型風車で常時水面を撹拌し、水中に酸素を取り込む ・大量の魚を放流し、浄化させる	男 70代 美崎	1	駐車場、トイレ等来訪者・観客を受け入れる設備・施設が不備 →隣接するラフォーレの駐車場を活用するなどラフォーレの協力が不可欠	男 60代 美崎	2	定期的、できれば恒久的にイベントを企画実施するための組織が必要(周辺企業・行政・市)	男 20代 守山	1	美崎全体における位置づけ(イベント含む) 全体のデザインがまずは必要では?自治会主導で専門家とともに検討	男 30代 彦根
イベントを行う際の安全管理体制 ・デッキ自体 ・イベント運営 ・イベント実施者	男 20代 守山	3	大川の水交換が不十分で悪臭、放出口も砂でふさがれている。→琵琶湖管理者である県に浸透を求め、また、大川管理者である市が水質改善対策を講じる	男 70代 美崎	2	駐車場やトイレを確保する(ラフォーレの施設を活用させてもらう)新しく設置する⇒場所、費用が問題	男 20代 守山	3	イベント時の来訪者、参加者を歓迎する関連事業(例・地元産品の販売等)が求められる⇒受け入れ体制作りの整備	男 60代 美崎	4	ネーミングは大切、公募する	男 20代 守山
なぎさ公園、美崎公園、ビエリの客を呼び込むためには安全な導線が必要⇒課題、答えみえず	男 60代 美崎	4	デッキの位置を住宅寄りにする ・湖岸道路へ出たとしても行けるように ・川を横断するデッキが必要	男 70代 美崎	3	・駐車場 ラフォーレ側の側道に細長い駐車場を作る	男 70代 美崎	4	・PR、広報の方法の確立 どのように住民や外部からの人、観光客に魅力を伝えるか、だれが担当するか(自治会?)	男 30代 彦根			
			水質・水辺環境の改善、整備の具体的な目標を立てる。新しく考えるか、昔の風景を再生するか、コスト等	男 30代 彦根									
			建設時、川をせき止め、水際に沿って水路を作りそこへ引き上げたヘドロを放出し、6ヶ月程度かけて水分を除去する。	男 70代 美崎									

【3-1】北部地域での状況とのコラボについて

食を体験出来るように		景観・風景をつくる!! 写真を撮れるように!! 水をきれいに!!		推進体制を整え、話し合いを進める		自転車意識		自然を体験、遊び場として活用					
属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性				
ピワイチを意識して!! 「道の駅」風の施設 ・農作物、魚(調理後)の販売+カフェ併設 ・地元食材を活用して新メニュー考案	男 40代	1	雄大な山々をバックに四季の花々が広がる場所にしたい	女 70代	1	周辺を活用して色々なイベントを実施できるよう推進グループで話し合う	男 40代 守山	1	北側スペースにドックラン(大型)、ドッグカフェ誘致 →業者を誘致して運営委託	男 40代			
北側スペースに屋内外のバーベキュー設備を作る(or施設)おうみんち野菜、近江牛の直販と併せて。(お土産に美崎メロンの販売等)	男性 40代	3	四季を通じてイルミネーションを点灯 ホテルの生息する川に景観づくり	男 70代 彦根	1	各事業所の人や地域の人、有志(行政含む)などでまちづくりを企画実施する。組織を立ち上げ推進を図る(具体策を話し合い実施)	男 40代 守山	2	ピワイチとのコラボ→サイクリング(温泉、食事できる) →市町での運営および開発(業者誘致、運営委託)	男 40代			
			ピワイチのサイクリストが写真を撮れる風景をつくる	男 40代 守山	2	業者委託する ラフォーレ、シダックスと相談		3	自転車にしようイベントを企画する	男 40代 守山	3	・びわこの魚の種類、名前がわかるように! ・釣りできれば…	女 70代 彦根
			水上デッキで植物を觀賞 湖上ナイトシアター(夜間の映画上映)	男 70代 彦根		・協議会 ・メディアに毎年取り上げてもらえるようになること ・他にはない、独自性 ・花と恋人の聖地	男 70代 彦根						
			大川沿いに桜・楓の植樹	男 70代 彦根	2	イベント業者活用							
			地球市民の森との景観の役割をつくる	男 70代 彦根	4	収益により一層の推進を図る							
			シンボルとなる高い木の植樹(メタセコイヤ) →いざれイルミネーション等 ・記念写真のとれる場所としての整備 ・ラフォーレさんともレーション ・「花」の設置	男 70代 彦根									
健康づくり		その他の課題											
属性	属性	属性	属性										
健康づくりができるエリアになれば良い	女 70代	1	電気が使えるように整備(ウッドデッキのイベントの際に使用)	男 40代 守山									
宿泊施設との連携で、健康づくりやいざしができるエリアに	男 40代 守山	4	導線を考える必要がある	男 70代 彦根									

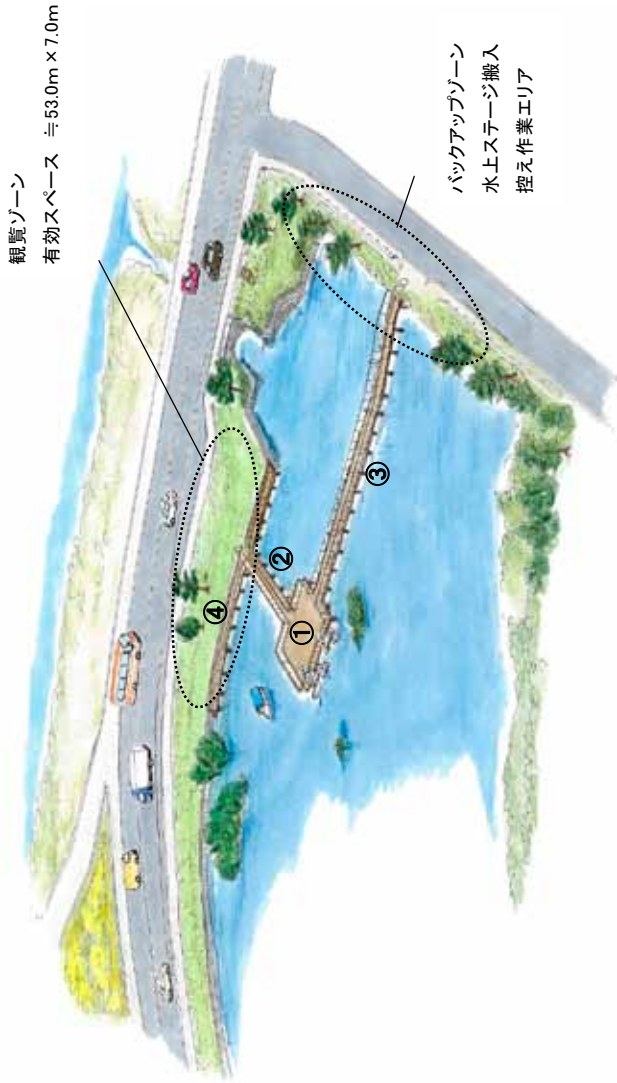
**【3-2】デッキ周辺の諸設備について**

道の駅(美崎ブランドの直販) 中嶋地区の遊休地の有効活用		属性	属性	属性	属性	属性	施設整備	属性	
守山の伝統行事のミニ版を観光客に見ていただく 「すし切り祭り」 「勝部の火祭り」 「おまん灯ろう祭り」など	男 60代	魚の鑑賞、生態系	男 60代	砂浜スポーツ(なぎさ水泳場)、ピワイチ等スポーツ愛好家の誘客	男 60代	農振青地の規制を見直し、様々な新しい経営を考える 例えば、クラインガルデン、畑のなかでのカフェハウス	1	ピワイチの休憩所の設置 併せて駐輪場と(温浴)足湯の出来る設備の設置	男 70代
河口部の開閉による水質の向上策の実施	男 70代	一年を通じて四季の祭りを年間行事として行う	男 60代	・電気設備の整備 ・管理事務所の設置	男 60代	デッキにベンチを置くことについて デッキワークを散歩する人に対し、休憩する目的としてスタートするのが良い	4	横断歩道、トイレ、信号機、駐車場の設置	男 60代
四季それぞれ訪れる観光客を誘致	男 60代	観賞目的、スポーツ目的(なぎさスポーツ、ピワイチ)を誘客	男 60代			彩色観光			男 60代
・バス釣り大会 ・屋形船を浮かべる	男 60代	外来種の魚、植物、タニシ等の展示場の設置で来訪者の認識を上げる	男 70代			周囲の畑の一部をさつまいも、大根の収穫をオーナーとして楽しんでもらう			男 60代
地球市民の森、美崎公園等周辺施設との総合的な活用	男 60代	デッキ周辺の堤防整備 例えば、河岸の遊歩道の整備と、水生植物園的な花を中心とした設備を造る	男 70代						
湖岸振興会とのコラボで人集め。そのためには足場やトイレ、地元名産品の直販所の設備の充実	男 70代	水上デッキの周辺に、守山の花(アジサイ、バラ、妙蓮)のミニ公園をつくり誘客を図る。できれば1年を通じて花が見られる施設がいい	男 60代 美崎						
1 東西南北どこからでも大川に浮かぶウッドデッキが見れるよう周囲の環境も整備する	男 60代								
なぎさ公園、葉の花畑、美崎公園との連携による人集め(魚釣り場、ボート、足湯)	男 70代								
美崎地域の特徴を活かした新しい農業への取組。外部の人々が自由に集える観光農業等	男 60代								
音楽会等の島の鑑賞会 野菜等の即売会	男 60代								
びわこ八珍と地元名産美崎メロン、野菜等の直売所	男 70代								
美崎地区全体の土地を利用できるように、また不耕作地をなくすため市民農園を造る	男 80代								
大川と新川で囲まれた中洲地域の畑作物(野菜等)の直売施設や日曜市等の開催で農家所得の向上を図るとともに不耕作地等をなくしていく	男 60代								
・青空市場 ・ガレッジセール	男 60代								
2 ラフォーレ、ピエリ等の周辺施設とコラボした観光農業や体験農業の展開	男 60代								
ラフォーレとの約束事項である温浴施設や、新たに道の駅を設置し乗客や農産物の地産地消を図っていく	男 60代 美崎								
3 美崎北部の新鮮野菜の朝市	男 60代								
大川の水理境の改善をテーマに、環境にやさしい農業の展開新しいブランドの確立	男 60代								

**【4】デッキの維持管理について**

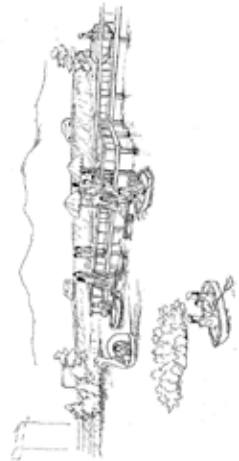
属性	属性	属性	属性	属性		
・デッキ完成後の維持管理予算 ・トイレの設置 ・夜の照明灯	男 60代	・駐車場の確保 ・清掃等の維持管理一継続 ・子どもの事故防止 ・ゴミ問題	男 60代	・継続的なアビール、イベント等 ・近隣の施設とのコラボ、葉の花畑・パークセンター ・大川の浄化 ・マナー違反者に対する啓蒙	男 60代	
・雑木草の除去 ・夏場の維持管理をどうするのか	男 70代	利用者の入場料	男 70代 美崎	・自然の草花 ・希少草花を守り育てる活動	男 70代	
魚釣りのマナーの見本場所となるように(魚釣り自体が悪いわけではない)	男 70代 美崎	河川周辺の除草管理を業者委託する	男 50代		4	
ステージの貸し出しを時間制とし自治会で、予約などの受付管理から徴収までを行う	男 50代				お満伝説の伝承でタライ舟競争を行う(時期は夏) 一小学校高学年や中学生を対象(タライ舟が必要) 利用者が絶えることがないように情報を発信する	男 70代
3 管理は誰がするの？	男 70代				・ピエリ来場者へのアビール ・空き店舗の活用	男 50代
4 イベントを行う場合、トイレと駐車場は必要	男 70代					不明

大川活用プロジェクト  
里川ゾーン河口部ウッドデッキ整備計画・・・レイアウト説明図

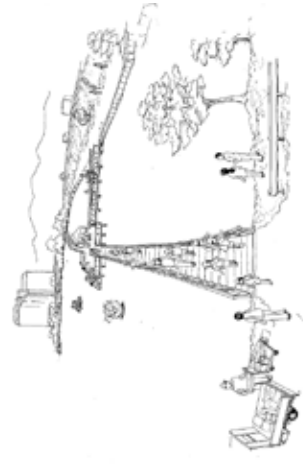


- ① 水上デッキステージ  
新たなビューポイントとして多目的に活用  
水上ステージ、環境学習スペース、ボート小型船  
乗降機能、撮影スポットなど・・・  
※10.0m x 7.5m 程度のスペースを確保
- ② ステージ取り付け連絡路  
観覧スペースとの取りつけ L≒13.0m W=2.0m
- ③ 経路デッキ L≒50.0m W=2.0m  
回廊ネットワーク機能形成(美崎公園方面)  
資機材搬入経路機能(車載物をステージへ)  
ラフォーレ琵琶湖との連携(一面的な展開を図る)
- ④ 経路デッキ 護岸に沿って設置  
回廊ネットワーク機能形成(ビエリ方面)  
観覧ゾーンの拡張機能を持たせるとともに、湖岸  
道路の歩道から歩行者を誘導するためのデッキと  
して設置

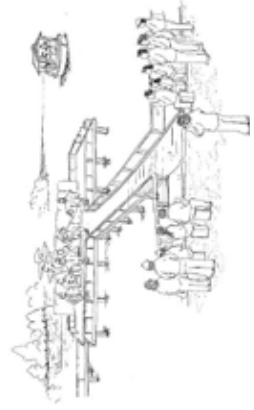
利活用イメージ例



大川水上探訪(ボートあそび)

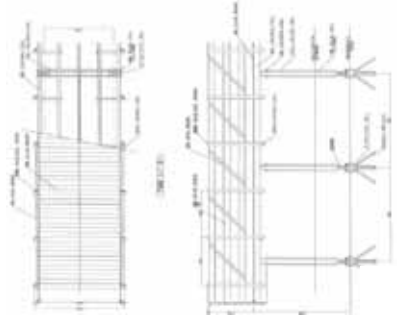


環境学習(遊歩道:回廊ネットワーク)



水上ステージ(演奏会・水上演劇会・・・)

◇構造図



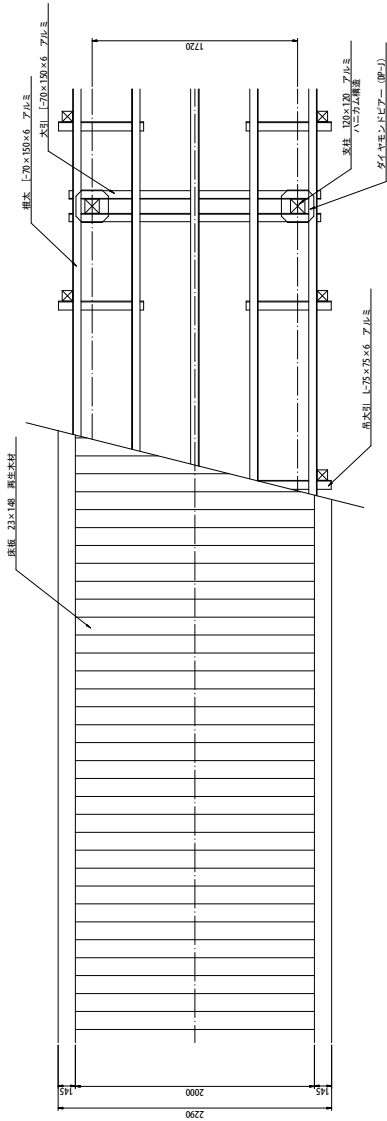




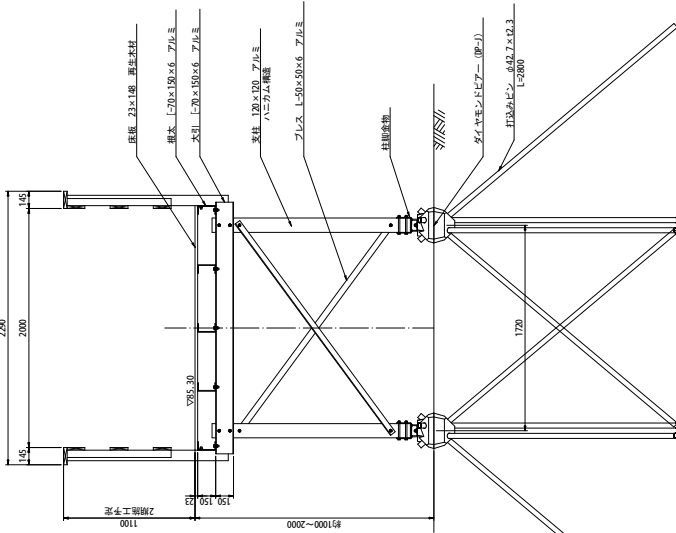
大川遊歩道 本体構造参考図

S=1:20

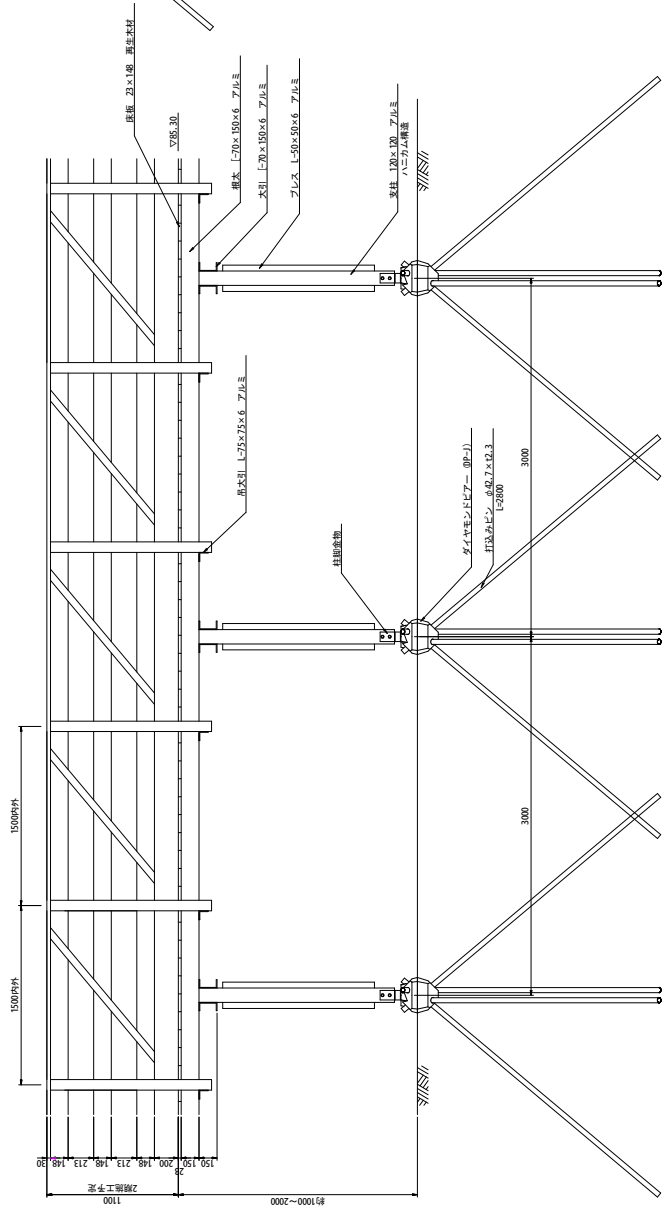
平面図



断面図



側面図



- 仕様
- 1) 構造材は構造用集成材(ワリエル)45%、本物は厚50以上の割合を標準とし、仕置は1.3以上とする。
  - 2) アルミ足金材は、6061-T5もしくは6063-T5とし、アルミコートプロセス処理。
  - 3) 打込みピンは、S76000(一般用途用非熱処理鋼)・H2040(造船用非熱処理鋼)とする。
  - 4) 打込みピンは、S76000(一般用途用非熱処理鋼)・H2040(造船用非熱処理鋼)とする。
  - 5) 打込みピンは、S76000(一般用途用非熱処理鋼)・H2040(造船用非熱処理鋼)とする。
  - 6) 特殊な要求あり、ボルト、ワッシャー等は防錆処理メッキ仕上りとする。
  - 7) 図示された製品は、(特)日本公團建設局発注の防錆責任保険加入製品とする。
  - 8) 図示された製品は、(特)日本公團建設局発注の防錆責任保険加入製品とする。
  - 9) 図示された製品は、(特)日本公團建設局発注の防錆責任保険加入製品とする。

年度・番号	平成27年度	守道第9号
河川名	播磨河川	大川
工事名	大川水辺環境整備工事	
地名	守山市	今浪町 地先
図面名	大川遊歩道	本体構造参考図
縮尺	1:20	
図面番号	10 枚ノ内 3	
守山市	都市経済部	道路河川課

# 美崎オープンミュージアムプロジェクト

滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科

## 滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科 3 回生・後期演習課題 — 美崎オープンミュージアムプロジェクト —

環境建築デザイン学科・担当教員  
芦澤竜一／川井操／白井宏昌／永井拓生  
ホアンラモン／松岡拓公雄

### 美崎オープンミュージアムのコンセプトデザイン

研究テーマ タイトル名称	研究室名	研究発表一覧表
		学生(研究生)名簿
Moriyama City Project 「たけの子の道」	白井研究室	神戸 涼、木下 潤一、黒崎 健士郎、辻 祐実、野田 慎
MISAKI LEAF	永井研究室	伊勢 俊介、中村 優、西本 拓郎、山田 亮
郷の結 さとのゆい	ホアン研究室	瓜生田 優紀、桂 若葉、金沢 葉穂、堀内 康平
農業特化ニュータウン	川井研究室	青島 蓮未、神谷 篤、安井 大輝 吉川 直輝
Bamboo Hotel	芦澤研究室	今村 奈美、澤村 優佳、寺本 千智、萩崎 敬太、
みさき ぐるっと ミュージアム	松岡研究室	上西 昂文、杉本 真菜、廣瀬 奈々、野崎 翔
木から生態、経済を生む山ネイチャー レインボーロード整備計画	芦澤研究室	駒井 健也



### 「環境建築デザイン」の役割

環境建築デザインの使命は、人々の目に見える空間を形作るのみならず、それを支える目に見えない環境系（生態系、空気・水の循環、熱・エネルギーの流れ、資源の循環・・・）を構築することだと考えます。環境建築とは、それらが可視化、言語化され、日々の生活や余暇の中で空間体験化されることだと言えます。



環境フィールドワーク 木匠塾（多賀町・加子母村・川上村、他） 古民家の改修・活用  
 木興PJ（南三陸町） 竹の会所（気仙沼市） 竹の庭（湖南市） セトレマリーナ琵琶湖  
 Dragon Court Village

### 演習の概要－美崎オープンミュージアム－

滋賀県守山市に位置する新川を含めた美崎地区が対象エリアです。県内でも有数の景勝地である本地区の周辺には、多くの観光客・利用客が訪れる琵琶湖大橋や佐川美術館、セトレマリーナ琵琶湖、ピエリ守山、ラフォーレ琵琶湖などの大型集客施設・建築物があり、また、その一方で河川に囲まれた三角州状の土地は肥沃な土壌に恵まれ、豊富な農作物や自然に恵まれた豊かな環境です。

本課題では、現在は鬱蒼とした放置林と化してしまっている新川の河川流域を中心に提案を行います。この場所について、周辺地域あるいはより広いエリアにおける位置づけと価値の発見を行うとともに、「美崎オープンミュージアム」として再生し、地域活性化や観光資源として活用していくための基礎となるグランドデザインのシナリオを提案してください。



美崎、新川の現地見学調査（12月1日） 審合（12月10日） 学内発表（1月26日）

### 3. 取り組みテーマ

研究室（ゼミ）ごとにテーマを決めて取り組む

- A：大川のウッドデッキ整備と連携した新川周辺の活用方法を考える
- B：誰のためか？ターゲット・市場を考える。観光が、地域の人々の憩いの場か？
- C：農業景観、河畔林を含めた地域の原風景
- D：隣接する地球市民の森との関係や、集客施設との連携を図る
- E：環境整備、廃材の利用・処理、資源の循環、コスト等、地域のリアリティを踏まえた提案をする
- F：計画案をどのように進めるか、ワークショップや市民参加等、手法も提案する

## 美崎オープンミュージアムプロジェクト 「たけの子の道」

滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科 白井研究室

私達は守山市の現状のデータからデザイン案にアプローチした。まずは、守山市の森林率である。美崎地区では感じないが、守山市の森林率は0%である。守山市は緑が少ないということであり、市街地にいくとさらに緑が少ない。まず、これが守山市の課題であると考えた。次に守山市の子ども達に注目した。守山市には子どもが多いということが、統計から読み取ることができる。この現状から子供たちが自然の中で遊べるような場所が必要であると考えた。

私達の案は竹林の中に子どもが楽しめる道を通すものである。その中にアクティビティが入り込む。人工物の多い守山市の中であるが、敷地の中ではそれを反転させる。すると、道では人間が主となり、竹林では自然が主となる、そうすることで、自然の中で子ども達が遊べる場所ができあがり、かつ環境の保護、その他の公園との差異が生まれる。美崎地区にはこういったポテンシャルがあると感じ、このデザインを提案する。

1



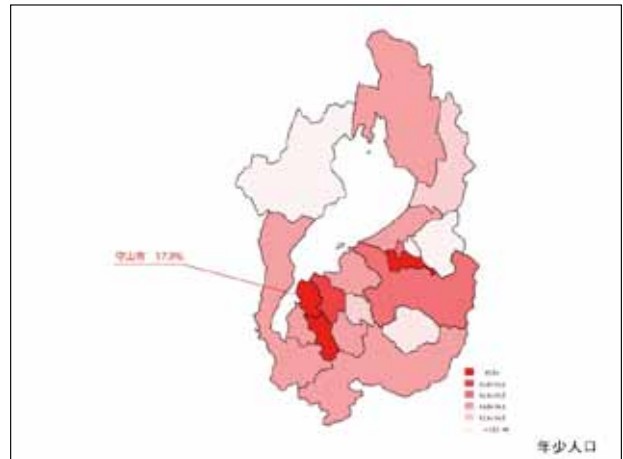
2

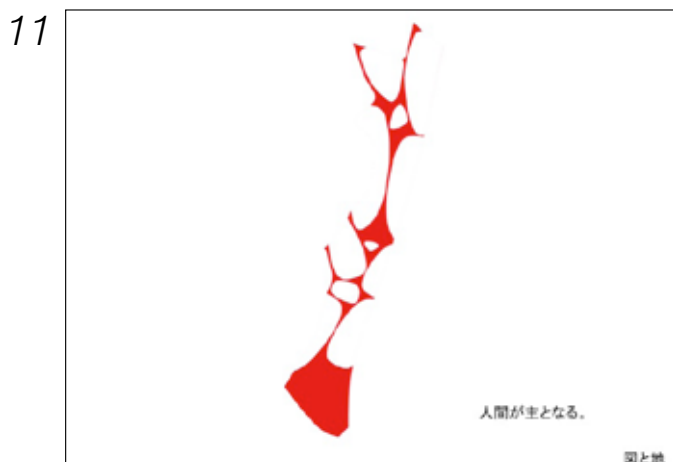
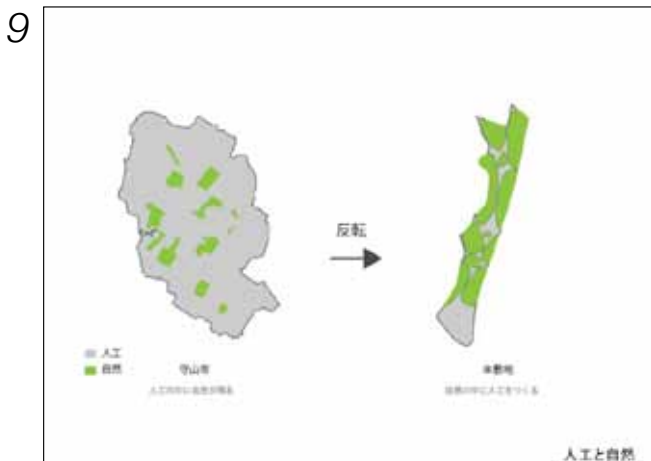
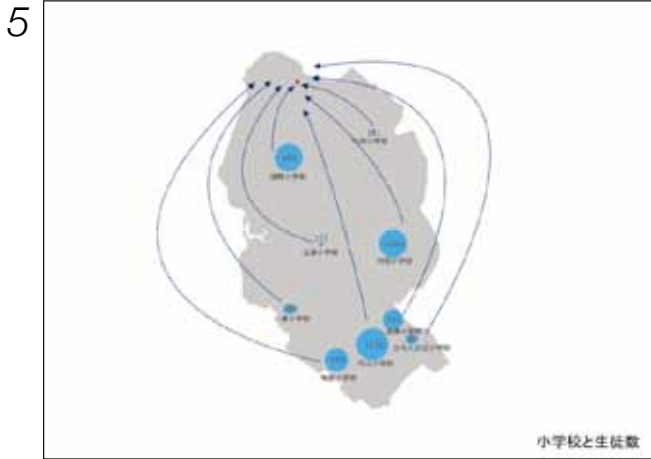


3



4







13



竹チップ

14



竹チップの道

15



施工のフェーズ

16



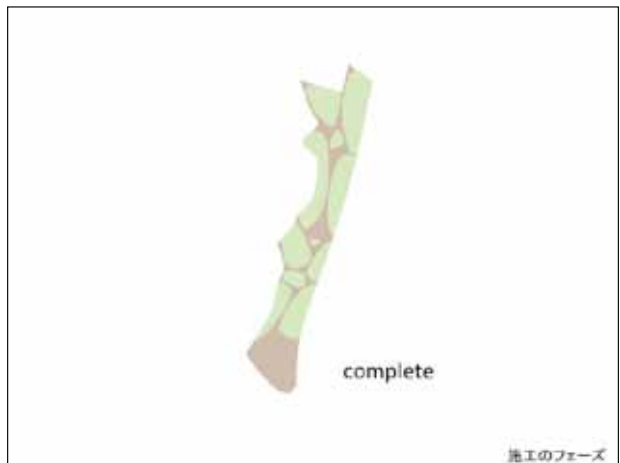
施工のフェーズ

17



施工のフェーズ

18



施工のフェーズ

19



配置図

20



たけの子の道

21



23



25



27



22



24



26



28





## 美崎オープンミュージアムプロジェクト「MISAKI LEAF」

滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科 永井研究室

大川と新川に挟まれた美崎地区全体を一枚の「葉っぱ」に見立てた。大川と新川の水質改善や植林活動、農業体験など地域一体のワークショップによる美崎地区の活性化を図る。

この活動を「美崎 LEAF プロジェクト」と名付け、自然・地域・食交流から地域資源の再認識をし、まちづくり活動が新たな地域の魅力を創生する。そのために美崎地区の人々と学生などの外からの人々が一体となり、ワークショップを開けるための拠点を計画する。拠点を中心とし、自然整備またまちづくりを行っていく。そして「美崎 LEAF プロジェクト」を市街・県外・国外への情報発信のモデルとなる。

1



2



3



4



5



6



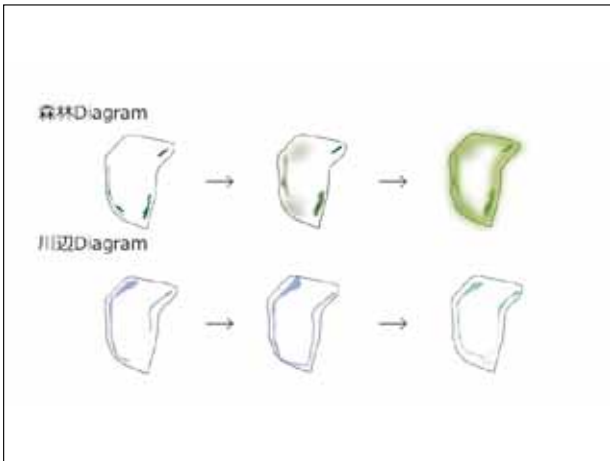
7



8



9



10



11

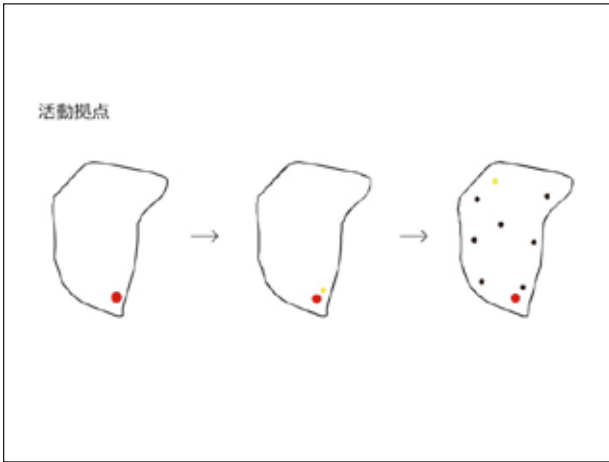


12

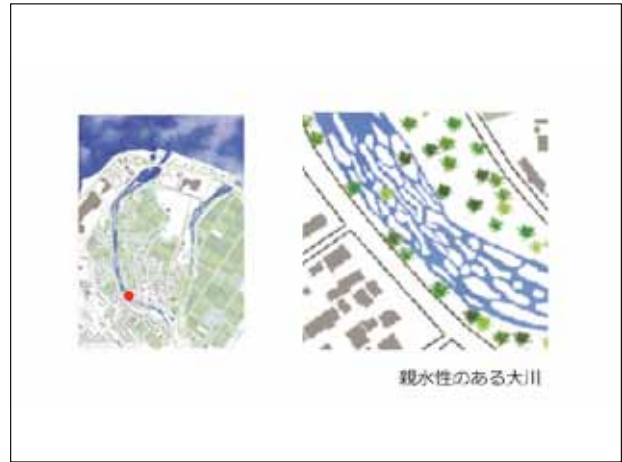




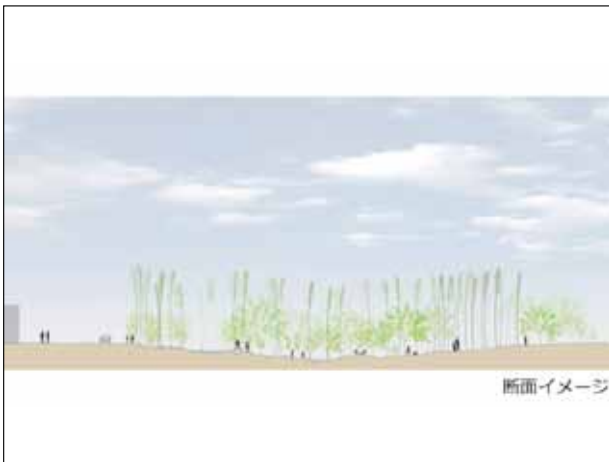
13



14



15



16



17



18



## 美崎オープンミュージアムプロジェクト 「郷の結」

滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科 ホアン研究室

私たちはホテルやショッピングセンターなどの公共施設、新興住宅地が立ち並び宅地開発が進む守山北部で、今もなお残る昔からの3つの集落に焦点を当てた。3集落でヒアリングと敷地調査を行う中でそれぞれに昔から生業としてきた産業の息がだいぶ細くなっており、また、集落間外での交流が希薄であることが問題であると考えたのが本提案の嚆矢。

敷地は3集落の中心部大川の上空。対象は3集落の住人と周辺住人。従来交わらなかった『農・林・水産』の3産業に“直売所”という形で拠点の“架け橋”を渡すことにより、物々交換などの集落内での産業とコミュニティを活性化するとともに集落のアイデンティティを外に発信し新興住宅地の人々など集落外とも“結い”が生まれる空間となる“直売所”を提案する。

直売所には水質改善にもなる釣堀を併設しており、栈橋をって行き来できる。きれいになった大川を眺めながら釣った魚を調理して食べられる飲食店も併設。



5



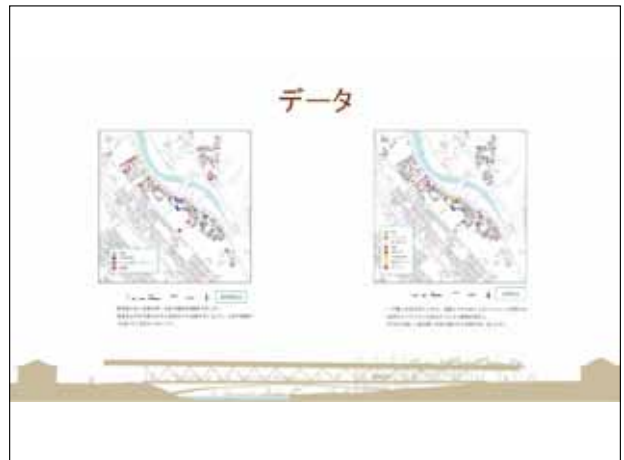
6



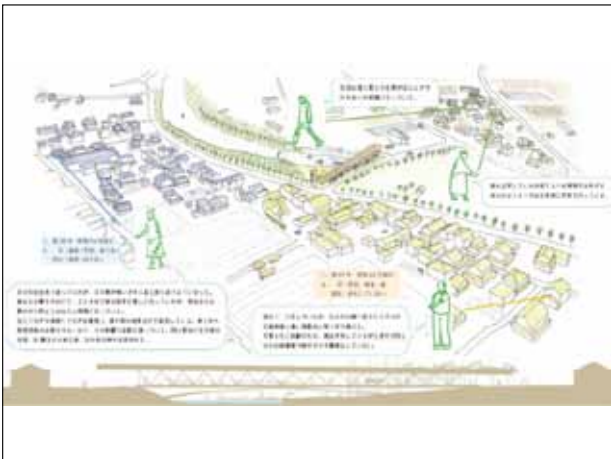
7



8



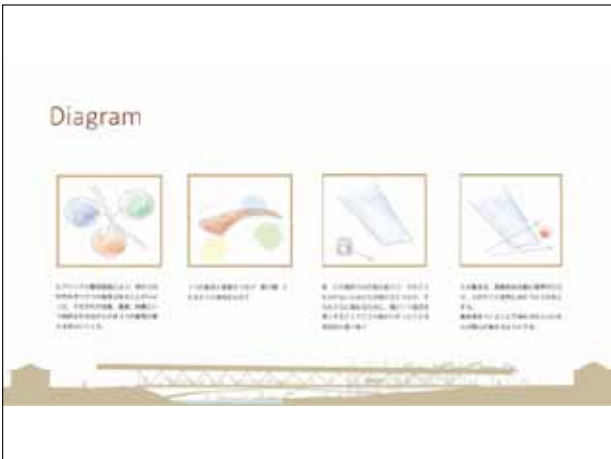
9



10



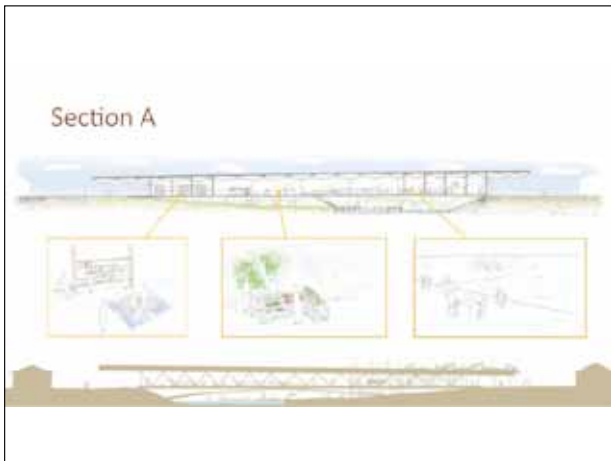
11



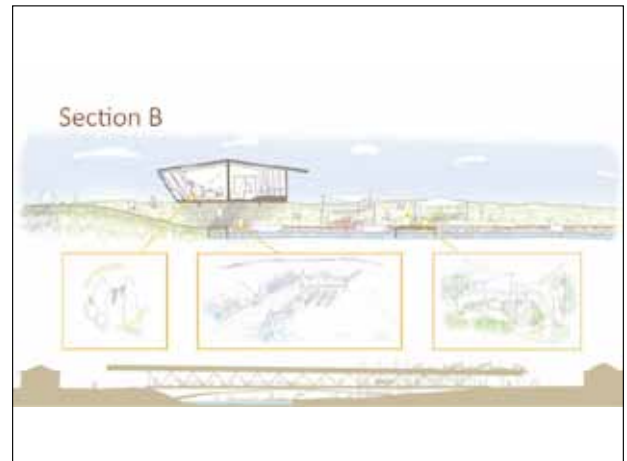
12



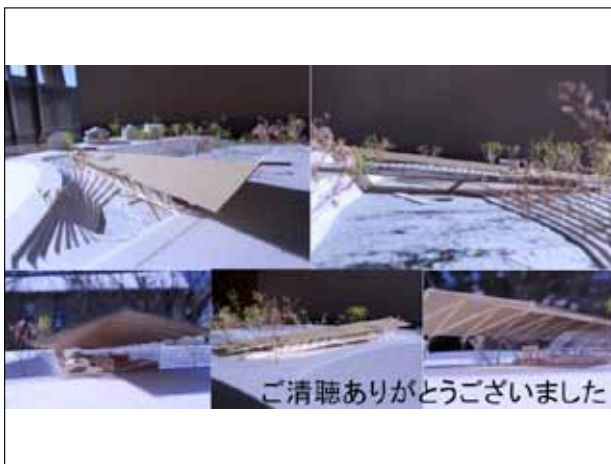
13



14



15





## 美崎オープンミュージアムプロジェクト「農業特化型ニュータウン」

滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科 川井研究室

美崎地区は山岳からの豊かな土壌が退席しており、特に三角州を形成しているエリアは美崎地区の中でも質の高い土壌となっていると推測できる。実際に守山市の中でも美崎地区は農業が盛んであり、農業としての土地の有効利用が求められると考える。また、守山市は人口増加が確認されており、今後の新規入居者に対して住宅提供が必要とされている。

先述した2つのテーマから美崎地区の良さを引き出した農業特化型ニュータウンを提案する。この農業特化型ニュータウンは畑と住宅をただつくるのではなく、既存の集落の住居形態や畑との関係性を読み込み、ニュータウンに反映、発展させていく。そして、そのようにしてニュータウンが広がっていき、将来的には美崎地区が農産物はもちろんのこと、ニュータウンの形態、発展の仕方も注目されることを期待する。

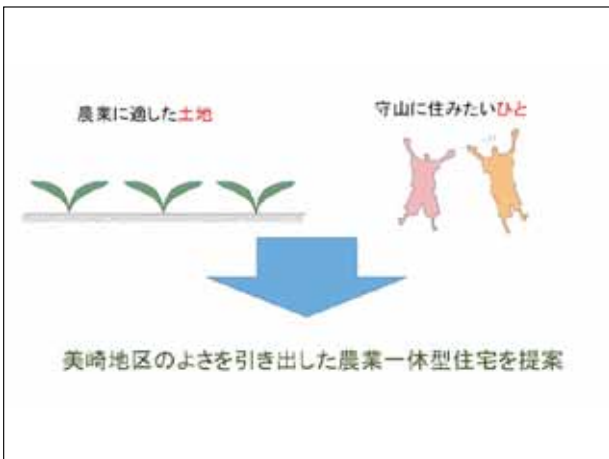
1



2

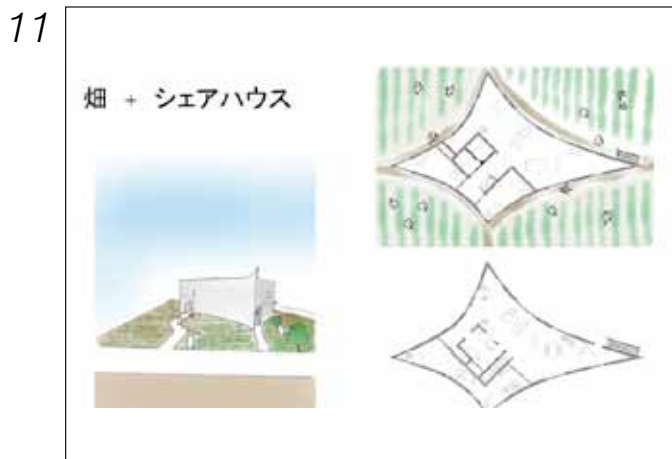
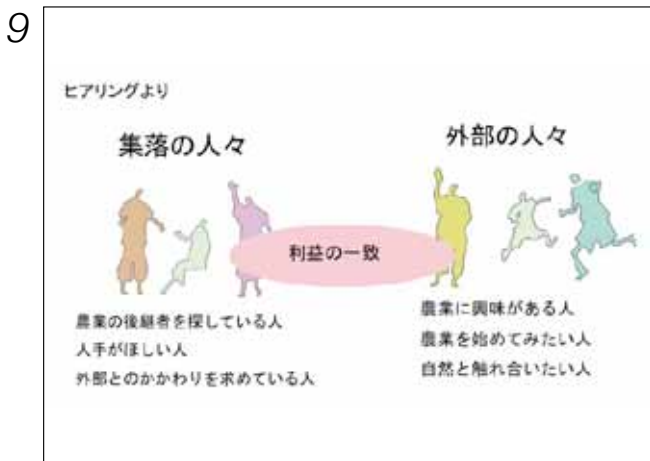


3



4





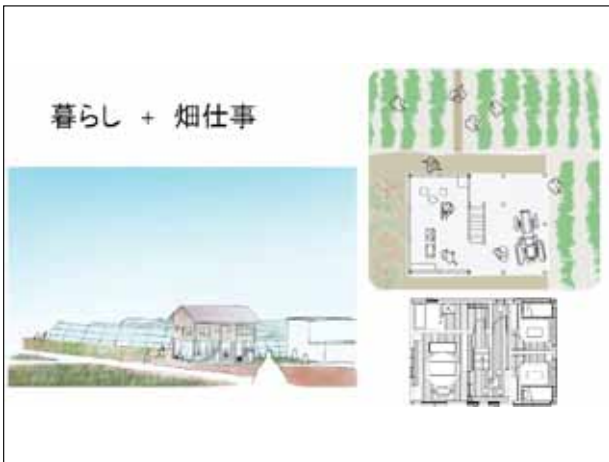
13



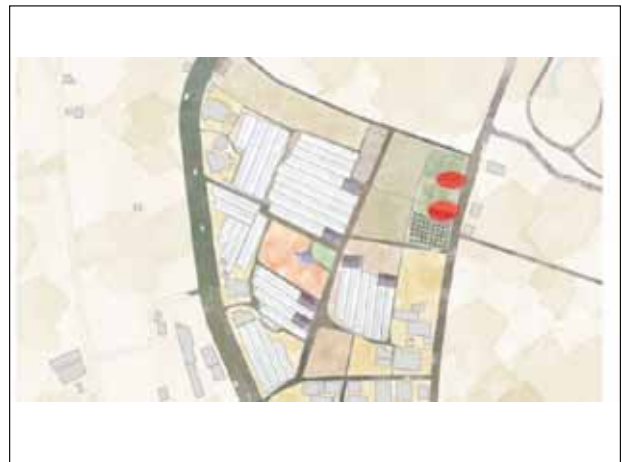
14



15



16



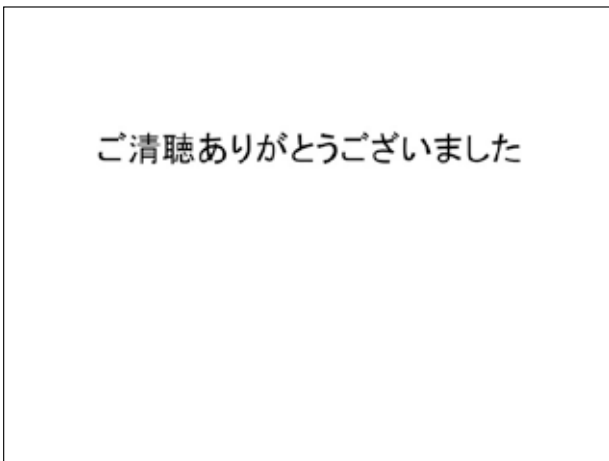
17



18



19



## 美崎オープンミュージアムプロジェクト 「Bamboo Hotel」

滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科 芦沢研究室

私たちは守山美崎地区の問題を土地利用、交通、緑地、景観の4つの観点から建築による解決を模索しました。この4つの観点から観光、ビワイチ、新川の親水、放置竹林という特徴をつかみ、町の人々や宿泊者の手によって景観を良くしていき、自然や文化を感じることでできる竹のゲストハウスを提案します。

このゲストハウスは、主にサイクリングする人たちをターゲットとした観光施設で、宿泊する上での火起しや農業体験をすることができます。また、この建築を覆う大屋根のフレームは竹できており、躯体が朽ちたりすれば放置竹林から切り出した竹を利用し、持続可能なものとなっている。

自然に親密な生活を体験でき、サイクリングをする人の憩いの場となりつつ、守山の顔となる観光施設を提案します。

<p>1</p> 	<p>2</p> <p>現在の美崎地区 問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>土地利用の問題</b> 「観光リゾート拠点」として、湖岸風景や自然環境を活用した観光機能の強化</li> <li><b>公園・緑地・河川の問題</b> 水質の改善や水辺の緑化の推進により、良好な自然環境を維持・保全 湖岸やびわこ地域市民の森等のネットワークの強化</li> <li><b>景観形成の問題</b> 湖岸風景や自然環境と調和した景観の形成</li> <li><b>道路・交通施設の問題</b> 本町の北の玄関口としてふさわしい幹線道路の整備や自転車道の形成 歩行者が安心して歩ける道路の整備の必要性</li> </ul>
<p>3</p> <p>建築的 解決方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>エコホテルの提案</b> 周囲のホテルは富裕層向けであることから、安価で自然的なホテルの提案</li> <li><b>竹炭による水質/土壌改善</b> 建材の竹が劣化した場合、竹炭化し川や土壌に埋めることによる土壌水質改善</li> <li><b>放置竹林を素材として</b> 竹を建材として利用。川沿いを整備し、自然環境と調和した昔ながらの景観の形成</li> <li><b>ビワイチからつながる新しい玄関口</b> 船上タクシーなどが展開されるなかで、ビワイチをする人にとって守山がスタート地点に</li> </ul>	<p>4</p> <p>放置竹林 問題点</p>  <p>竹は成長力が強く、手入れを頻繁に行わなければならない。 放置され荒々様になっている広葉樹や針葉樹の 光合成が妨げられ、森林の減少を招いている。</p>



5

### 竹炭としての利用方法

**炭の特性**  
 無数の微細なパイプでなる「多孔質」と呼ばれる基本構造がある。この無数の孔は、吸着性とバイオリアクターとしての特性を生かして様々な効果を生み、ダイオキシンなどの有害化学物質や大気中に用いている窒素酸化物の無害化することができる。

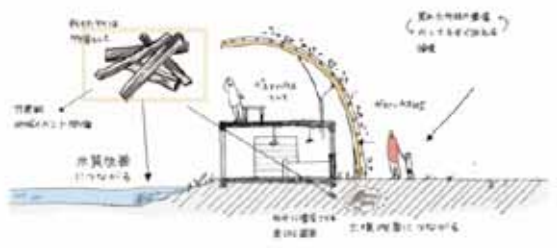
**竹炭を川に沈める→水質改善**  
**地中に埋没させる→土壌改善**



事例：河川水質浄化施設（岐阜県岐阜市）  
 事例：河川水質浄化施設（岐阜県岐阜市）  
 事例：河川水質浄化施設（岐阜県岐阜市）  
 事例：河川水質浄化施設（岐阜県岐阜市）  
 事例：河川水質浄化施設（岐阜県岐阜市）

6

### 建築の活用



竹炭の活用  
 竹炭の活用  
 竹炭の活用  
 竹炭の活用  
 竹炭の活用

7

### 建材としての利用



建材としての利用  
 建材としての利用  
 建材としての利用  
 建材としての利用

8

### 食生活のエリア



食生活のエリア  
 食生活のエリア  
 食生活のエリア  
 食生活のエリア

9

### 竹炭のエリア



竹炭のエリア  
 竹炭のエリア  
 竹炭のエリア  
 竹炭のエリア

10

ご清聴ありがとうございました。

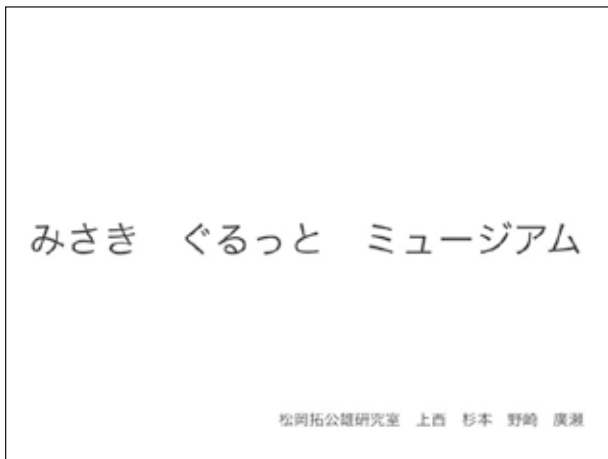
## 美崎オープンミュージアムプロジェクト 「みさき ぐるっと ミュージアム」

滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科 松岡研究室

守山市美崎地区には新川と大川という2つの川が存在する。しかし、現在はこの2つの川が分断されてしまっている。そこで、この2つの川を中心に様々な仕掛けをちりばめることで、美崎地区全体に回遊性を創り、この地区にしかない魅力を引き出すことを目指す。私たちが考える美崎地区の在り方として、「2つの川に対する親水性を高める」「四季を通して楽しめる場づくり」「回遊性」の3つがあり、これらを組み合わせることで、この地域にしかない「美崎オープンミュージアム」を創ることができる。

大川周辺の具体的な活用例として、1. ウッドデッキの拡張 2. 並木道の整備 3. 間伐材を用いた木造工法「ココノマ」による船着き場や八百屋などの建設 が挙げられる。新川周辺では、マメ科つる性植物をパーゴラで上へあげることで、親水性を高め、管理もしやすくなる。この地区全体を「ぐるっと」してもらうことで、隠された魅力をたくさん発見することができるのである。

1



2



3



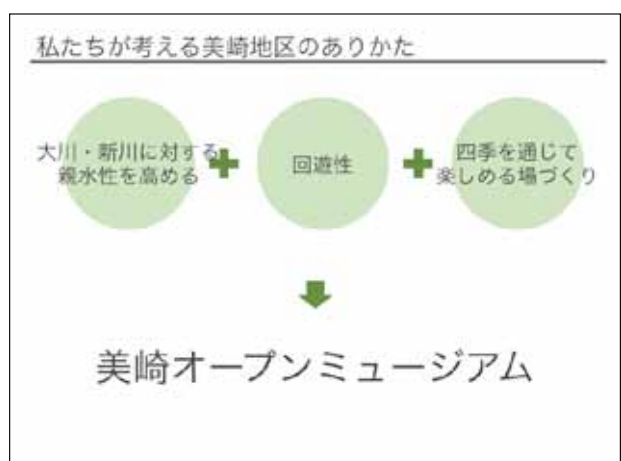
4





8

私たちが考える美崎地区のありかた





13



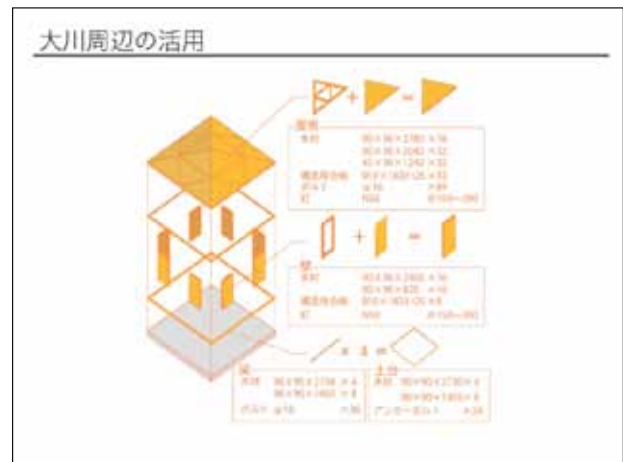
14



15



16



17



18



19



20





21

## 新川周辺の活用

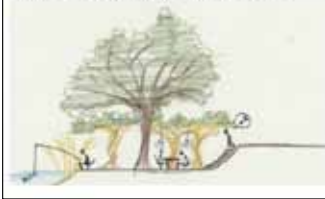
22

### 新川周辺の活用

#### ⑤ マメ科つる性植物の活用

繁殖力強く成長も早いいため人工林においては有害植物。

管理しづらく、親水性を損なう  
パーゴラを用い、植物を上へ



23

みさきの魅力、ぐるっと発見！

24

おわり

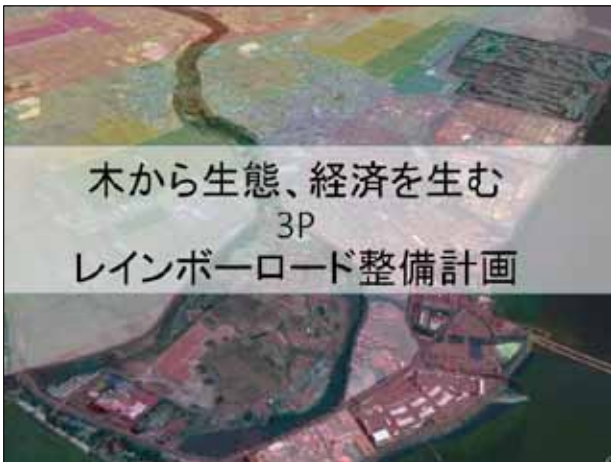
美崎オープンミュージアムプロジェクト

「木から生態、経済を生む 3P レインボーロード整備計画」

滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科 駒井研究室

植樹、塗装、林整備というだけでも出来る三つの英語の頭文字Pを基調に、既存の地球市民の森のプログラムから派生して、おうみんちから琵琶湖湖岸までをつなぎ、エコトーンを再生させながら、生態だけでなく、経済効果を生むレインボーロード整備計画を提案する。

その際植樹するものは、経済林となる林檎、梨、柿、葡萄等を植え、北守山の既存の施設群のプログラムを繋げ、守山に来た人たちにベロタクシーやレンタルサイクル等で多くの人たちを繋げ、緑溢れ、果樹園、屋台等で経済効果も生み、みんなで虹のように輝く道をつくっていかうとする整備計画である。



1

みんなで誰でも作ることが出来る  
手法**3P**で森を整備し

生態的にも経済的にも回る  
輝く道

**レインボーロード**整備計画

2

みんなでレインボーロードを作る  
3つのキーワード

**3P**



植樹  
plant



塗装  
paint



林整備  
preparation

3

**植樹 plant**

- ・ 経済林・落葉樹
- ・ クヌギ、コナラ、エノキ、ヤマザクラ、コブシ、ヤマモミジ、ケヤキなど・常緑樹
- ・ アラカシ、シラカシ、クスノキ、シイ類、タブ、ヤブツバキ

+果樹等経済価値を生む植物を植え、人々がたまる  
+エコトーンを促す植樹計画で生物多様性を生む道へ



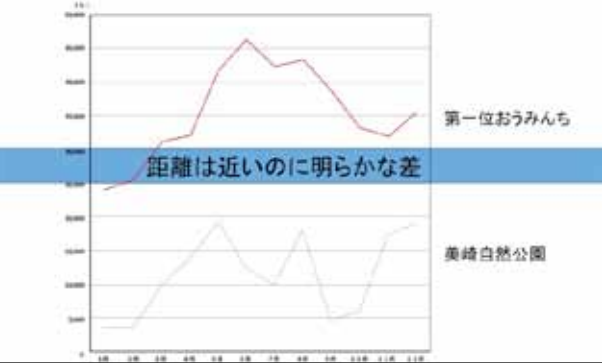
4




5 林整備 preparation



6 守山市湖岸エリアの主要集客施設の平成26年観光入込客数



7 台湾からの訪日観光客の旅行目的から敷地プログラムの決定



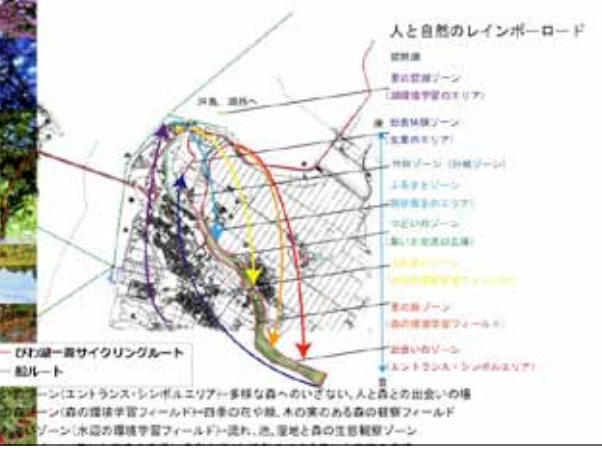
8 美崎自然公園を周辺四季を取り込んだ施設へ



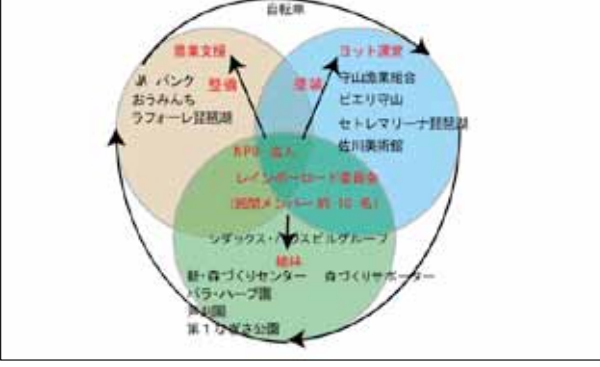
9 守山市地球市民の森とその周辺との関係



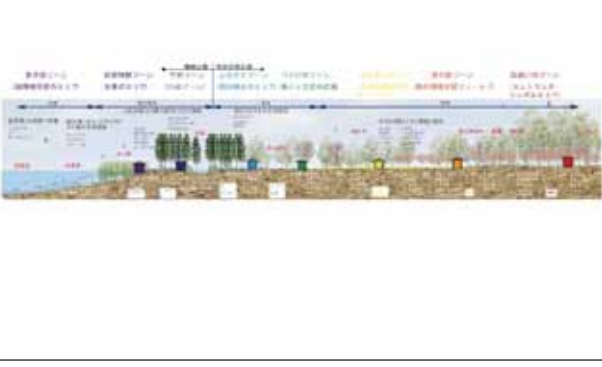
10 人と自然のレインボーロード



11 関連企業との連携図と運営体制

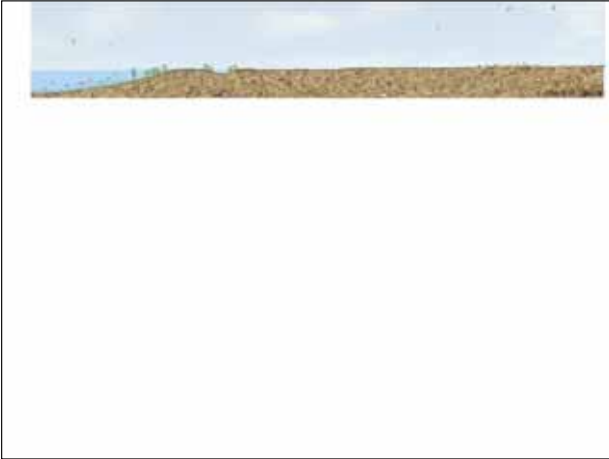


12





13



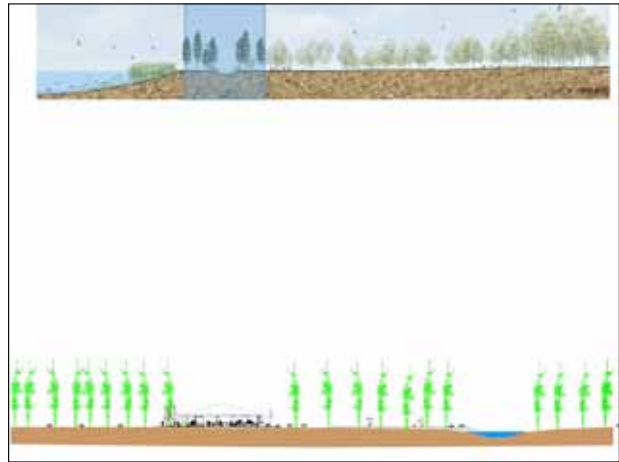
14



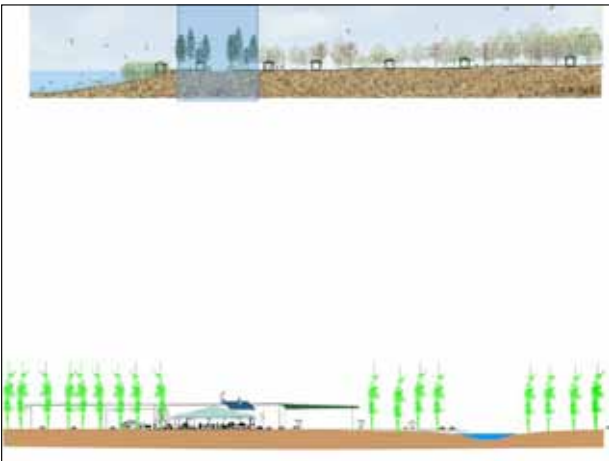
15



16



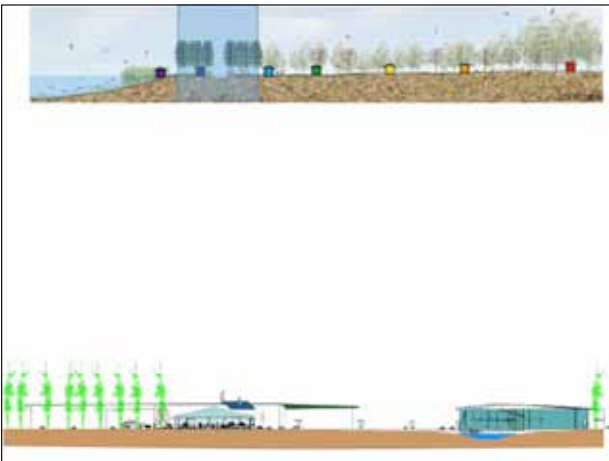
17



18



19



20





21



22

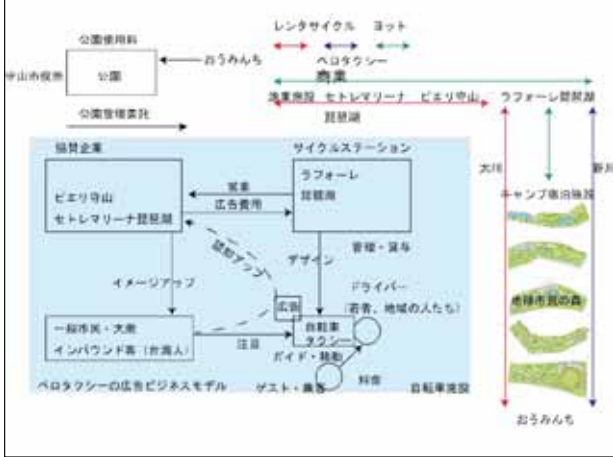


23

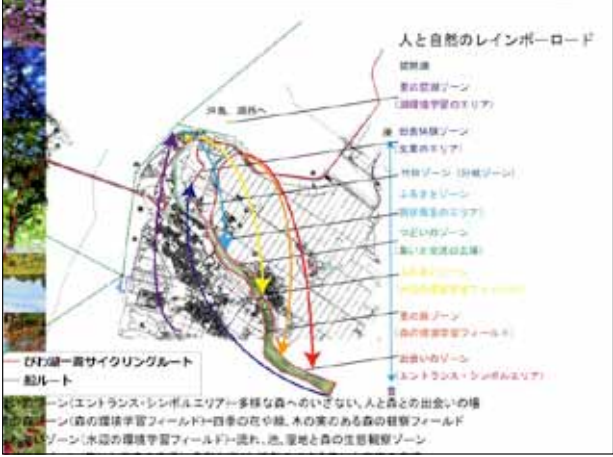
### ベロタクシーマルシェパース



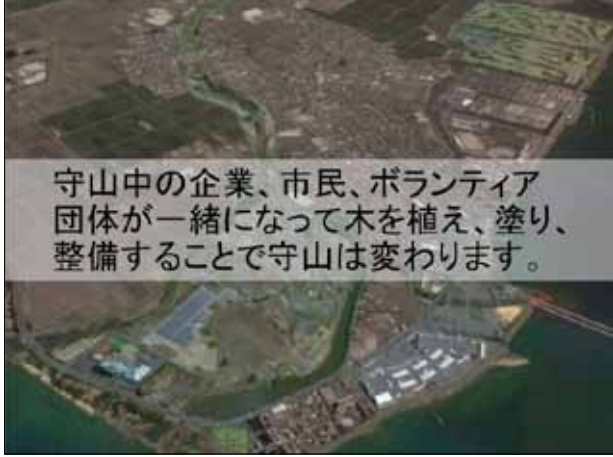
24



25



26



27

**みんなの3Rの結果が**  
**守山の新たな**  
**輝くレインボーロードという**  
**景観へ**

28



# これからの大川活用プロジェクト

立命館大学 濱野さん



**大川活用プロジェクト支援団体 haconiwa**

立命館守山OBを中心に結成  
現在32名が活動  
「学生ならではの」企画提案

昨年度まで立命館守山の生徒だったメンバーを中心に、立命館大学公認サークル「大川活用プロジェクト支援団体 haconiwa」として活動している。

他のボランティア団体等と連絡を取りながら、学生ならではの企画立案・実施を目指している。

**企画のコンセプト**

地域住民の方が喜ぶ企画は  
地域住民の皆さんが一番よく知っている

地域住民の方が喜ぶ企画（ex. 夏祭り、自由研究室）は、すでに実施されており、これらは地域住民の皆さん自身が一番需要を理解されているだろう。

したがって、私たちは他の地域から人を呼び込むためにどんな企画ができるか？を企画のコンセプトとしている。

### 提案① 水上ガーデン



一つ目が、夏にスイレンの花を水上に浮かべ、「水上ガーデン」とすることだ。スイレンは枠の中でのみ生育し、繁茂しにくいいため、環境破壊にもならない。デッキ周辺の一区画にこれを実施し、春先の、菜の花畑などとともに名所としていはどうだろうか？ 琵琶湖博物館の近くにハスの池があるので、その管理者の方に一度大川を見てもらい、適しているか確認するのが第一歩であろう。

### 提案② 竹灯籠



2つ目は冬に竹灯籠のイベントをすることだ。周辺の竹林を秋口に伐採し、そこで出た不要な竹材を利用することでコストパフォーマンスも確保する。またデッキのステージで地元の学校の吹奏楽部などに演奏をしていただいたり、SNS 上で応募可能なフォトコンテストを開催したりすることで、集客も図る。大阪府茨木市で同様の取り組みが行なわれているため、連携も可能ではないだろうか。

### 補足 Webページの開設



Web ページを作りたいとの依頼を前回のワークショップで受けた。その回答として、Strikingly を紹介する。これは無料で初心者でもサイトを簡単に作れる Web サービスだ。これを使って Web ページを立ち上げることを考えている。写真等の材料さえあれば、大学生の手で管理運営できるので、ぜひ始めていきたい。

### 補足 Twitterの活用



Twitter の活用もワークショップで挙がっていたが、すでに私たちが取り組んでいる。したがって、私たちのアカウントを大川活用プロジェクト全体のアカウントとして流用すれば、すぐにも利用可能だ。

以上のように、①外部からの集客のためのイベント、②ネットを活用した広報を私たちは提言したい。



## 「大川・新川、そして、湖辺地域の魅力化に向けての提言」

### ＜立命館大学 八木先生＞…教育・研究分野代表

大川プロジェクトの今後に関して、以下2つの点で重要であると考えます。

1つは、研究フィールドとしての大川。

大川は川というよりも、三日月湖のような環境になっています。今後、導水されるとすれば、その環境は大きく変化することが想定され、その差をきっちりと見ていくことは、研究課題としては大変有意義ではないかと思えます。

この間、3年前に「水環境研究活動交流集会」を開催し、その2日目にここを会場にして水環境研究活動の地域連携をテーマに3校の発表と意見交換を行いました。

高校生が、こうした研究に取り組み、地域や社会とのつながりを考えるということも大変意義がある取組ではないかと感じ、こうした経験を発展させられたらと思えます。

もう1つは、この大川プロジェクトが、つながりを大切にした魅力ある学習の場になっていると言う点です。組織としてもそうです。

立命館守山としても、卒業生がボランティア団体を作って関わってくれるのも、こうした魅力があるからではないかと思えます。イベントの内容を見てもたとえば、大川夏休み子ども自由研究室では、子どもたち同士が、親同士が、世代を超えて、大川を軸にして様々なつながりができ、学びがそこにあったと思えます。

大川フォーラムや親水デッキのワークショップでも、参加者の広がりが出ていますが、つながりを大切にした魅力ある場だからこそではないかと思えます。

こうした2つの意味で、大切にしていきたいなと感じています。

### ＜美崎自治会 葎本さん＞…地域産業分野代表

美崎の自治会長さんはじめ、これだけ大勢の方々が大川新川に関心を持ち議論を進めてくださったことは後々に立派な成果として表れていくことと思ひ、うれしく思ひます。

そういひますのは12年前、私は自治会長も務められた農家の方にお出ひいし、次のように言われまひました。

「葎本くん、地球市民の森をどうしようと考えてはるんでしょね。」

美崎をまひとめていただひているような方からこのような言葉を聞くことにとても驚き、同時に、地域における市、県の事業区画の違ひや、この大川プロジェクトのような勉強会等がないまひ事業が推進されていったというところに端を発する

(次ページにつづく)



ものではないかと思いました。

「もっと地域みなさんに興味をもってもらえるような努力が必要ではないでしょうか。」と提案したところ、民間の有志が集まる勉強会のようなものを開いてはどうかという話になりました。

そこで、当時地球市民の森に貢献をいただいていた企業の本部に伺い、「みなさん一生懸命草刈りへのご参加や、植樹をしていただいておりますが、地域の感度が下がっています。もっと住民にみなさんがご尽力いただいていることを理解してもらおう場として、立ち上げを検討している勉強会の事務局を預かっていただけないか。」とお願いいたしました。

そして勉強会は講師の方をお招きし、2年のうちに2回行いました。勉強会を通じ、将来の活用への不安を解消していくためにはみんなが関心を持ち、見守り育てる必要があると強く感じ、また勉強会だけではダメだとも感じました。

そこで、とあるきっかけを通じある方に桜の木を寄贈してくれないかとお願いをしに参り、水口に植えておられた桜を今日まで6回に分け、500メートルの距離に88本植樹をいたしました。その過程においては、桜が枯れてしまうなど様々な課題に当たる中で、多くの関係者のみなさまにご協力、ご尽力をいただきました。

今後も継続して投資をどのように使っていくのか、効果を追求していくということが必要であると思いますので、本日発表いただいたみなさまのお知恵をいただきつつ、市長にもお力添えいただき、素晴らしい美崎、地球市民の森になっていくことを期待しつつ、私ももう少し頑張っていきたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

## <立命館大学 中村先生>…地域産業分野代表

美崎公園の中村です。指導員として、子どもたちの環境学習や、自然体験のお手伝いをしています。そんな中から美崎公園での各学習についてお話をさせていただきます。

美崎公園は旧野洲の新川を生きし「水辺の暮らしや自然にふれて、自然に親しみ、自然環境について学ぶ」別名「みさき公園」として14年前に誕生しました。

かつて新川に生育していた今では貴重種のミクリやタコノアシ、そしてヨシ群落を形成するヨシ、ウキヤガラ、マコモやガマなどの水生植物があり、特にガマはガマ、コガマ、ヒメガマと日本に生育する3種類のガマがすべてそろっています。

事業は年間を通じて、水辺の生き物や植物とふれあう場や自然体験教室、米作り体験なども実施しています。7月、8月には夏休み親子教室として自然体験等の教室を16教室行っています。ら小学生くらいまで多くの子どもたちが美崎公園に来てくれています。

中でも「ドングリざんまい」という、キャンプ場でお弁当やドングリクッキーを焼いて食べ、クラフトするという秋の自然体験教室は特に人気があり、今年実施の2回とも定員を超える人気教室になっています。

もう一つ公園の重要な役割として、学校や園の環境学習・自然体験活動の受け入れがあります。保育園や幼稚園は、季節ごとに繰り返して来られて訪れられます。

小学校では、毎年速野小学校の5年生が自然探検ウォークラリーや、水辺の生き物学習、中洲小学校は4年生がヨシ学習の一環としてヨシ刈り・紙漉き体験や、ペンづくりをします。また、琵琶湖大橋を渡って堅田小学校も5年生も環境学習にやってきます。

中学校は「野洲川の歴史や人々の暮らし」、あるいは「水質調査」というようなテーマで学習にきておられましたが、最近ヨシ学習や、野鳥観察を目的とする生徒さん自身からの4～5人のグループでの申込みが増えています。つい先日も4人グループがヨシ学習に来て、ピエリでバスを降り第1なぎさ公園で「雪を頂く比良山とカンザキハナナ」を見てきたそうで、「その堤防の向こうにハマヒルガオがある」という話をしました。中に速野出身の子がいて、「僕は知ってる。お父さんが世話に行ってはる時一緒にいった。」という話になって地域の人と自然との関わりについていい学習ができました。

少し前、11月には明富中学校の1年生が訪れ、午前中は男子4人が野鳥観察、午後は女子2人がヨシ学習をしました。野鳥観察では、新川のカイツブリやカワセミのところへコガモが来たり、木の上にヒヨドリがいっぱい鳴く中を通り抜け、なぎさ公園まで歩きました。すると、11月のはじめは渡りの途中だそうですが、数えるのを諦めるほどのすごい数のカモでした。オオバンとホシハジロの群れで数千羽程おり、子どもたちは、「すごいなあ」と感動して帰っていきました。

1月31日はびわ湖一斉水鳥観察会があり「冬みさきにやってくる鳥たちに出会う」と題し美崎公園となぎさ公園で実施します。最近になってなぎさ公園のカモも減少し、第1なぎさのカンザキハナナも終わりに近づいているのが残念ですが、このみさき一帯を学習の場として感動体験を得ることができたらいいと思っています。

以上、美崎には水辺の環境を中心として様々な学習や体験をすることができる場所があり、自然探検のウォークラリーも美崎公園だけでなくもっと広く学習することも可能になるのではというお話をさせていただきました。この大川活用プロジェクトで、オープンミュージアムの構想がだされていますが、まさにこういうことだろうと期待をしています。これから益々発展されていく中で、共に進んでいくことができればありがたいと思っています。ありがとうございました。

## ムクロジについて

商工会議所 松永さん



なぜムクロジか？ということで不思議に思われているかもしれませんが、

実は、ムクロジは守山でもここにしかない。

それは、市役所に勤めているときに、市誌調査に携わった際に知りました。

自分が住んでいる川田町からみても、オンリーワンという響きは非常に憧れであり、その旨、伊藤自治会長に話したらば、記念植樹会をぜひ開催しようという運びとなり昨年行ったばかりであり、そういう経緯で今回ムクロジを提言の題材としてあげさせていただきました。

- **ムクロジはお釈迦様からのおくりもの**
- お釈迦様は人々を病や悪から守ってくださいますお釈迦様の言葉に「もし、煩惱・業苦を滅し去ろうと欲するなら、ムクロジの実、百八個を貫き通して輪を作り、それを常に持って行住坐臥に渡って一心に佛法僧三宝の名を唱えてムクロジの実を一つ繰り、また唱えて実を一つ繰るということを繰り返しなさい」と。
- お釈迦様は手ずからムクロジ108個を繫いだ数珠をお作りになり薬師如来様・大日如来様や十大弟子に配ったそうです。

そもそもムクロジは、お釈迦様からのおくりものと言われており、お釈迦様が108個を繫いだ数珠をお弟子たちにお配りになり、煩惱・業苦を滅しさせることができるとされているいわれのある木でありますので、そのようないわれのある木を大切にしたらどうかという点が1つ

- **ムクロジは漢字で[無患子]。**

読んで字のごとく、子どもが患わない病気をしないという意味です。

ムクロジは和名を延命皮(えんめいひ)と言い、漢方薬として強壮・止血・消炎などの薬効を重用。

ムクロジの別名ソープナッツは、欧米でも究極のエコ洗剤として、オーガニックショップ・ナチュラルショップなどでは気だとか。

また、ムクロジは漢字で【無患子】と書き、子どもが患わない病気をしないという意味があり、実際に薬効も重用されているという点が1つ



さらには、昔は石けんに使われていたもので、環境に配慮するという点でも、今回、次の第2ステージへの展開への提言ということで、自分たちの身の回りの“たからもの”をもう一度見つめ直して大切にしていっていただこうかという意味で、ムクロジを取り上げさせていただきました。



こちらは、その無患子のよく知られている利用方法で、羽根つきのタネであったり数珠玉であったりしております。



こちらは、それ以外の利用方法の提案ですが、現在推進されている「ピワイチ」のお守りやストラップとかにどうかということで提案させていただきます。



さらに、こちらは、今回大学生からの竹林の活用についての提案がありました新川箇所です。



こちらについては、竹林としての活用もよいのですが、その活用以外に、オーナーを募って「梅園」を形成し、そこへの「観賞」や「もぎ取り」ツアー企画等で盛り上がっていければ、という提言もあわせてさせていただきます。



## 美崎自治会 平成27年度取り組み計画

平成27年4月28日

### ○27年度取り組み方針

- ①大川の環境改善のため、水草除去、除草活動、植生浄化に取り組む。
- ②大川再生ゾーンの整備に向けて、実のなる木の植樹や法面の整備を進めるほか、河道改修のための関係者調整を進める。
- ③大川河口部での親水性デッキの効果的な利活用や管理の在り方について協議・検討するとともに、その結果を議論するワークショップを開催する。
- ④子どもたちの地域への関心を高めるとともに環境学習の場を提供するため、夏休み大川自由研究室の開催や環境調査を実施する。
- ⑤大川活用プロジェクトとその取り組みを広く発信する。
- ⑥大川を中心とした地域の自然や社会を記録し、魅力と価値を共有化するとともに将来世代に伝えるため、みさき百科の編集や写真募集を行う。
- ⑦新川の環境整備（特に河畔林の整備・活用策）について、先進事例の調査を行うとともにあり方を議論・検討する。
- ⑧大川プロジェクトの最大の課題である水質改善に向けて、協議・調整を進める。

### ○取り組み内容

#### 1. 環境整備活動

- ①水草除去・・・7月、11月
- ②法面除草及び大川再生ゾーンの河畔林（竹）整備・・・7月、11月
- ③植生浄化事業
- ④生態系改善事業・・・在来魚放流事業（3月12日）
- ⑤再生ゾーンでの植樹・芝張り・・・4月26日ドングリ7本植樹、芝張りは梅雨入り後

#### 2. オープンミュージアム整備活動

- ①夏休み大川自由研究室開催事業（8月4日）
- ②環境調査事業

#### 3. 次に一步の準備活動

- ①大川フォーラム開催（28年1月30日 or 2月6日）
- ②河口部親水性デッキの利活用と管理方針の検討と、「利活用と管理を考えるワークショップ」の開催（9月26日）
- ③新川河畔林整備検討のための先進事例調査・・・湖南市・7月

#### 4. 魅力発信活動

- ①「みさき百科」編集事業
- ②「とっておきの美崎」写真募集事業
- ③ネットを活用しての発信

### ○その他取り組み事項

- ・美崎自治会「大川委員会」の開催・・・5月30日
- ・「大川だより」の発行 等

## 平成27年度大川整備等の取り組み実績

### ◎取り組み実績

月	日	取 り 組 み 内 容
3	8	大川回廊ゾーンの修景（ハナミズキ約50本植樹）
3	12	幼児による在来魚放流（コイ、フナ、ワタカ等約50匹）
4	26	大川再生ゾーンの整地・整備
5	16	大川再生ゾーンへの植樹（子ども達によるムクロジ、ドングリ、果樹等約30本の植樹）
5	30	大川再生ゾーンの整備（芝播種前処理）
6	7	大川再生ゾーンの整備（芝播種）・以後散水等継続管理
6	28	大川再生ゾーンの整備（芝地施肥）
7	12	びわ湖の生態系保全活動（親子外来魚釣り大会）
7	19	大川河川環境改善活動（水草除去・法面除草等）
8	2	大川再生ゾーンの整備（芝刈り）
8	4	夏休み大川自由研究室
8	23	大川再生ゾーンの整備（除草等）
11	4	守山市議会議員の視察
11	13	県立大学環境科学部との協議（新川河畔林の利活用研究について）
11	21	大川親水デッキの利活用と北部地域の魅力化についてのワークショップ
11	22	大川河川環境改善活動（除草・整地等）
1	11	先進事例調査（湖南省バンブーハウス調査）
1	23	第2回大川親水デッキの利活用と北部地域の魅力化についてのワークショップ
1	30	第5回大川フォーラム
1	31	大川河川環境改善活動（除草・竹処分等）
※		毎月第四火曜日 大川寄り合い開催

## アンケートのお願い

本日は大川フォーラムにご参加をいただきありがとうございます。大川活用プロジェクトでは引き続き取り組みを進めていきます。つきましては、下記のアンケートにご協力をお願いします。

大川活用プロジェクト

### 問1. あなたについて (○で囲んでください)

性別： 1. 男 2. 女

居住地： 1. 美崎 2. 美崎以外の速野学区 3. 守山市内 4. その他

年齢： 10歳代以下 20～30歳代 40～50歳代 60歳以上

### 問2. 「夏休み大川自由研究室」について (一つ選んで○をしてください)

1. 続けるべき 2. 続けるべきではない 3. 工夫の必要あり

理由やご意見

### 問3. 大川に整備予定のウッドデッキの活用についてお聞かせください。

(一つ選んで○をしてください)

1. 魅力的である 2. 特に魅力を感じない

理由やご意見

### 問4. 「大川・新川、そして湖辺地域の魅力化に向けての提言」を聞かれて、ご意見等あればお聞かせください。

### 問5. その他、ご自由にご意見をお聞かせください。

【ありがとうございました】

## フォーラム アンケート結果まとめ

参加者数：約 100 人程度

回収：10 枚

### 【問1 あなたについて】

○性別

男：9名 女：1名

○居住地

1. 美崎：3
2. 美崎以外の速野学区：2
3. 守山市内：1
4. その他：4

### 【問2 「夏休み大川自由研究室」について】

1. 続けるべき：9
2. 続けるべきではない：0
3. 無回答：1

<意見>

- ・子どもも楽しんでおり、交流も深められる。子どもたちが地元に関心を持ってくれるかもしれないから。
- ・琵琶湖の西の玄関としての必要がある。地域と生活の「びわ湖」のつながりのため。
- ・50名以上の子どもが集まってくれるイベントはとても貴重だから。
- ・非常に魅力のあるイベント。子どもたちの成長過程に大いに役立っていると考えため。

### 【問3 大川に整備予定のウッドデッキの活用についてお聞かせください。】

1. 魅力的である：10
2. 特に魅力を感じない：0

<意見>

- ・多くの人が活用できる場にしてほしい。
- ・人々の憩いの場となると思うから。
- ・若い人の活動の中で老人の出来事を教えてください。
- ・珍しいものなので、うまく活用すれば守山の新名所になる。
- ・ウッドデッキありきの議論でありましたが、魅力付けが多分に期待できると思います。県立大学の学生の提案を参考にしながら自然色の強いものに仕上げていくスタンスで進めていくべきと考えます。



- ・ 県立大学が提案された活動拠点の中心部が自治会（住民）の生活の中心部から離れている。

【問4 「大川・新川、そして湖辺周辺地域の魅力化に向けての提言」を聞かれて、ご意見等あればお聞かせください。】

- ・ 大川・新川等に関する新聞を発行することで、魅力化に向けられると思います。
- ・ 四季桜を植樹され始めたいきさつがとても衝撃的でした。個人で始めた活動が、地元企業、学区を巻き込んでいけるのはとてもすごいことだと思います。
- ・ 熱心な提案内容に正直驚きを感じました。大川（美崎地区）の魅力付けをする上で大きなヒントを得られたのではないのでしょうか。やはり「生活」「農業」「観光」（事業化）を考えた「まちづくり」を全員で考えていくことが重要だと感じました。
- ・ 方向性が定まれば、学生にもワークショップに入っただき、具体化していくのが望ましいと考えます。
- ・ 県立大学の学生さんの研究は good。アイデア段階に終わらせず、少しでも良いので具体化を。
- ・ 県大の提案は常に魅力的であり、葬られることなく一つのヒントとして是非とも取り入れてほしい。

【問5 その他、ご自由にご意見をお聞かせください。】

- ・ 夏休み大川自由研究室では、ミャンマー以外の他国の文化を教えることで子どもたちの視野が広がるかもしれません。
- ・ 自治会だけで当初取組を始められた大川の水質改善が、このような広がりを持ったことが大変素晴らしいことだと思います。
- ・ 色々な分野（層）の方々の「意見」（提案）を聞くことは、地元の方に刺激を与え有意義な時間となったのではないかと思います。
- ・ 次回も楽しみにしております。
- ・ 環境センターの周辺環境も含めた守山市北部全域の活性化をテーマに、県立大学の若い人々の力を貸していただければどうか。市職員の固い頭では限界があるのではないかと。若い学生さんはすごいね、大いに期待しています。
- ・ 地元の参加者の拡大が必要

# 資料 大川・新川水質モニタリングデータ

【春季】

【水質調査、経年変化<春季比較>】(大川・新川)

調査地点 項目\年度	上流 (C地点)					中流 (B地点)					下流 (A地点)					
	H23	H24	H25	H26	H27	H23	H24	H25	H26	H27	H23	H24	H25	H26	H27	
大川	pH	6.8	6.5	7.1	6.9	6.5	6.9	6.4	7.2	6.9	6.7	7.0	6.6	7.4	7.4	6.9
	BOD (mg/L)	7.1	4.7	9.6	3.5	2.4	3.5	4.5	6.8	3.2	2.2	2.4	2.7	2.3	3.6	2.3
	COD (mg/L)	15	6.6	12	6.8	7.3	11	5.9	6.3	6.1	6.6	6.7	6.0	6.4	6.5	6.5
	SS (mg/L)	21	13	26	15	8.5	14	24	14	11	5.5	12	11	11	12	10
	DO (mg/L)	4.4	4.8	5.9	3.5	8.9	3.6	6.7	4.9	3.7	8.5	3.7	7.5	5.3	6.5	8.5
新川	T-N (mg/L)	2.0	1.49	1.1	0.95	1.2	2.0	0.92	1	0.94	1.1	1.6	0.69	0.93	1.1	1
	T-P (mg/L)	0.2	0.15	0.13	0.12	0.094	0.3	0.086	0.067	0.1	0.083	0.1	0.082	0.032	0.1	0.064
	pH															
	BOD (mg/L)															
	COD (mg/L)															
SS (mg/L)																
DO (mg/L)																
T-N (mg/L)																
T-P (mg/L)																

(参考：採水日)

平成 23 年度 H23.5.26

平成 24 年度 H24.5.30

平成 25 年度 H25.6.3

平成 26 年度 H26.5.22

平成 27 年度 H27.5.21

別表 1 による評価結果まとめ

	上流 (C地点)					中流 (B地点)					下流 (A地点)				
	H23	H24	H25	H26	H27	H23	H24	H25	H26	H27	H23	H24	H25	H26	H27
大川	D	D	E	D	B	D	D	D	D	B	D	D	B	C	B
新川															

# 資料 大川・新川水質モニタリングデータ

【夏季】

【水質調査、経年変化<夏季比較>】(大川・新川)

調査地点	上流 (C地点)						中流 (B地点)						下流 (A地点)					
	H23	H24	H25	H26	H27		H23	H24	H25	H26	H27		H23	H24	H25	H26	H27	
項目\年度																		
pH	6.9	6.2	6.8	7	6.5		7.1	6.2	6.9	7.2	6.8		7.3	6.5	7.1	7.1	6.8	
BOD (mg/L)	14	10	6.6	16	5.7		8.7	3.7	2.1	4.1	5.3		2.8	4.2	2.6	2.5	3.3	
COD (mg/L)	13	17	9.1	11	7.9		16	7.4	6.1	5.5	8.6		9.6	8.4	6.3	6.2	8.4	
SS (mg/L)	31	29	13	57	20		13	8.5	4.6	15	14		9.2	13	4.8	4.6	19	
DO (mg/L)	4.3	6.0	8.7	8.9	7.2		5.6	4.2	5.8	7.1	8.5		4.7	6.4	5	4.7	7.5	
T-N (mg/L)	4.2	2.3	1	0.7	1.6		2.6	0.84	0.65	0.73	1.3		1.9	0.67	1	1	1.1	
T-P (mg/L)	0.40	0.46	0.19	0.48	0.025		0.18	0.077	0.063	0.13	0.038		0.14	0.066	0.068	0.055	0.039	
pH	6.9	6.6	7	7.1			6.9	6.5	7	7			7.1	6.6	7	6.9		
BOD (mg/L)	2.6	6.1	15	7.1			2.7	3.6	3.2	5.8			3.4	7.9	4	3.7		
COD (mg/L)	6.7	10	16	9.1			8.5	9.2	8	7.5			10	9.5	10	7.2		
SS (mg/L)	9.8	23	24	22			10	19	9.4	19			16	14	24	15		
DO (mg/L)	2.9	4.1	6.7	7.1			2.9	5.9	5.1	3			4.2	6.0	5.1	3		
T-N (mg/L)	5.9	2.0	2.6	1.7			4.9	2.4	2.6	1.4			3.0	2.1	2.6	1.2		
T-P (mg/L)	0.40	0.23	0.39	0.29			0.29	0.27	0.18	0.13			0.017	0.14	0.39	0.22		

(参考：採水日)

平成 23 年度 H23.8.8

平成 24 年度 H24.8.2

平成 25 年度 H25.8.12

平成 26 年度 H26.8.25

平成 27 年度 H27.8.27

別表 1 による評価結果まとめ

	上流						中流						下流					
	H23	H24	H25	H26	H27		H23	H24	H25	H26	H27		H23	H24	H25	H26	H27	
大川	×	E	D	×	D		E	D	B	C	D		D	C	B	D	C	
新川	D	D	E	D			D	C	C	D			D	D	C	D		

# 資料 大川・新川水質モニタリングデータ

【冬季】

【水質調査、経年変化＜冬季比較＞】(大川・新川)

調査地点 項目\年度	上流 (C地点)						中流 (B地点)						下流 (A地点)					
	H23	H24	H25	H26	H27		H23	H24	H25	H26	H27		H23	H24	H25	H26	H27	
pH	6.8	6.7	6.8	6.2	6.7		7.1	6.7	6.9	6.7	7.0		7.4	6.8	7.1	7	7.5	
BOD (mg/L)	1.4	3.2	2	1.5	4.4		1.4	3	1.9	2	3.6		1.5	3.4	2.5	2.0	4.1	
COD (mg/L)	9.4	4.6	4.9	3.8	5.1		8.6	4.4	4.2	3.7	4.9		7.5	5	4.8	3.7	5.1	
SS (mg/L)	14	6.5	17	14	16		10	6	8	5.5	9.0		7	8.5	9.6	7.0	5.6	
DO (mg/L)	6.5	6.4	8.5	10.2	11.0		8.5	6.3	10	10	12.9		10	8.9	11	11.1	12.3	
T-N (mg/L)	2.4	1.9	1.1	1.6	1.6		2.0	1.1	1.2	1.4	1.2		1.6	1	1.2	1.4	1.2	
T-P (mg/L)	0.16	0.07	0.13	0.085	0.084		0.13	0.066	0.11	0.063	0.066		0.068	0.059	0.087	0.065	0.033	
pH	6.9	6.9	6.8	6.9			6.8	6.9	6.7	6.9			7.0	6.8	7	7.1		
BOD (mg/L)	3.4	5.1	2.1	4.6			2.0	8.8	1.6	7.4			1.9	4.1	1.3	1.7		
COD (mg/L)	8.1	4.5	4.7	6.0			7.4	6.8	4.9	8.3			7.5	5.2	4.8	4.7		
SS (mg/L)	6	11	13	15			3	15	9.8	14			6	5.5	13	2.2		
DO (mg/L)	2.1	5.9	7.2	12.3			2.3	8.3	8	10.6			6.6	6.7	11.1	8.9		
T-N (mg/L)	4.6	2.6	1.6	2.3			3.0	2.3	1.8	1.8			1.5	0.8	1.6	0.7		
T-P (mg/L)	0.27	0.29	0.23	0.23			0.10	0.19	0.22	0.18			0.064	0.04	0.23	0.051		

(参考：採水日)

平成 23 年度 H24.2.16

平成 24 年度 H25.2.19

平成 25 年度 H26.2.13

平成 26 年度 H27.2.16

平成 27 年度 H27.1.15

別表 1 による評価結果まとめ

	上流						中流						下流					
	H23	H24	H25	H26	H27		H23	H24	H25	H26	H27		H23	H24	H25	H26	H27	
大川	B	C	A	A	C		A	C	A	A	C		A	C	B	A	C	
新川	D	D	B	C			D	E	A	D			B	C	A	A		



(別表1) 【生活環境の保全に関する環境基準(河川)】 …環境庁公示「水質汚濁に係る環境基準について」より

項目 類型	利用目的の 適応性	基準値						(参考) 該当河川
		水素イオン 濃度 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数		
AA	水道1級、自然環境保全 及びA以下の欄に掲げる もの	6.5以上 8.5以下	1mg/ℓ 以下	25mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	50MPN/ 100mℓ以下	四万十川	
A	水道2級、水産1級、 水浴及びB以下の欄に掲 げるもの	6.5以上 8.5以下	2mg/ℓ 以下	25mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	1,000MPN/ 100mℓ以下	利根川 最上川 北上川	
B	水道3級、水産2級及び C以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/ℓ 以下	25mg/ℓ 以下	5mg/ℓ 以上	5,000MPN/ 100mℓ以下	石狩川 多摩川	
C	水産3級、工業用水1級 及びD以下の欄に掲げる もの	6.5以上 8.5以下	5mg/ℓ 以下	50mg/ℓ 以下	5mg/ℓ 以上	-	荒川 住吉川	
D	工業用水2級、農業用水 及びEの欄に掲げるもの	6.0以上 8.5以下	8mg/ℓ 以下	100mg/ℓ 以下	2mg/ℓ 以上	-	寝屋川	
E	工業用水3級、環境保全	6.0以上 8.5以下	10mg/ℓ 以下	ごみ等の浮 遊が認めら れないこと	2mg/ℓ 以上	-		

## 【【用語説明】】

- 自然環境保全 自然探勝等の環境保全
- 水道1級 ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
- 水道2級 沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
- 水道3級 前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
- 水産1級 ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
- 水産2級 サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用
- 水産3級 コイ、フナ等、β-中腐水水域の水産生物用
- 工業用水1級 沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
- 工業用水2級 薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
- 工業用水3級 特殊の浄水操作を行うもの
- 環境保全 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

水素イオン濃度 (pH)

水生生物に安全なpHは6.8～8.5とされており、pHが7のときに中性、7を超えるとアルカリ性、7未満では酸性を示す。

浮遊物質量 (SS)

一般的に、数値が高いほど、水質の悪化を意味するとされており、水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質の量を示す。

数値が高いと、水が濁り外観が悪くなるほか、魚類のえらがつまって死んだり、水中植物へ光が届かず発育を妨げる。

溶存酸素 (DO)

一般的に、数値が低いほど、水質の悪化を意味するとされており、水中に溶けている酸素の量を示す。

数値が低いと、水の浄化作用を低下させ、水生生物が窒息死する。

一般的に、魚が生存するためには3mg/l以上が必要で、2mg/l以下では悪臭物質が発生するとされている。

生物化学的酸素要求量 (BOD)

一般的に、数値が高いほど、水質の悪化を意味するとされており、水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量を示す。

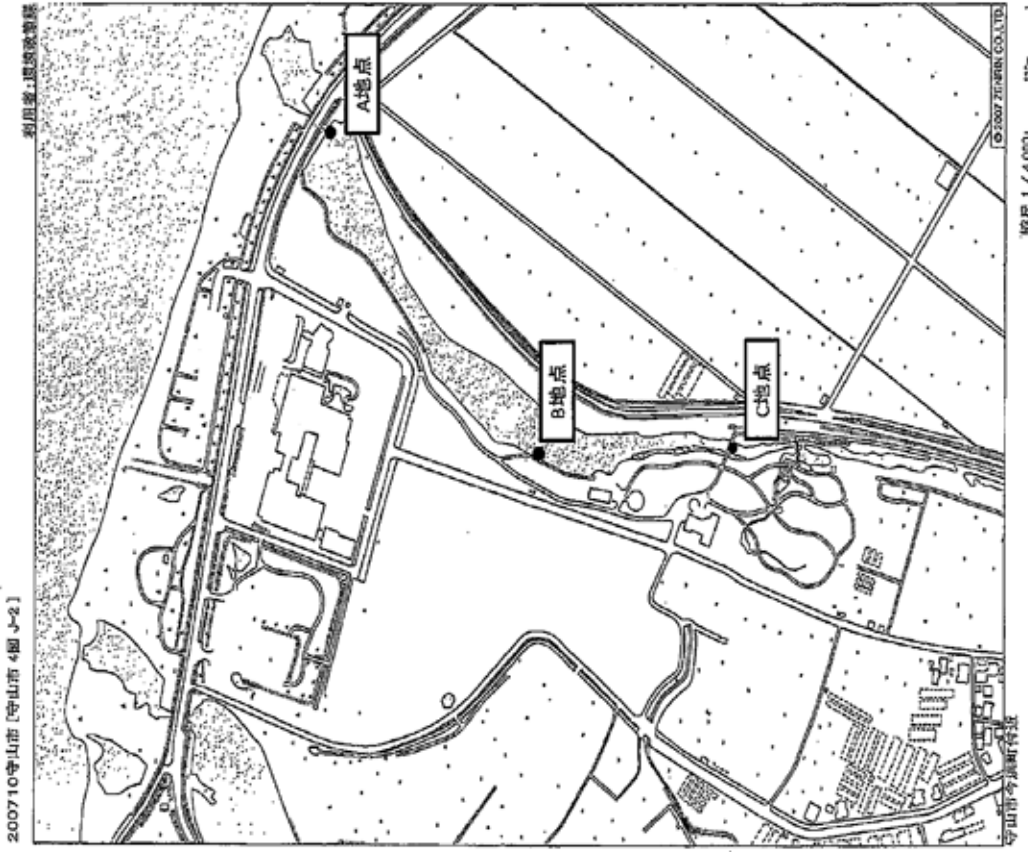
数値が高いと、溶存酸素 (DO) が欠乏しやすくなり、10mg/l以上で悪臭の発生等がみられる。

(参考) 水生生物の生息域 (出典：公害防止の技術と法規編集委員会編、公害防止の技術と法規 水質編)

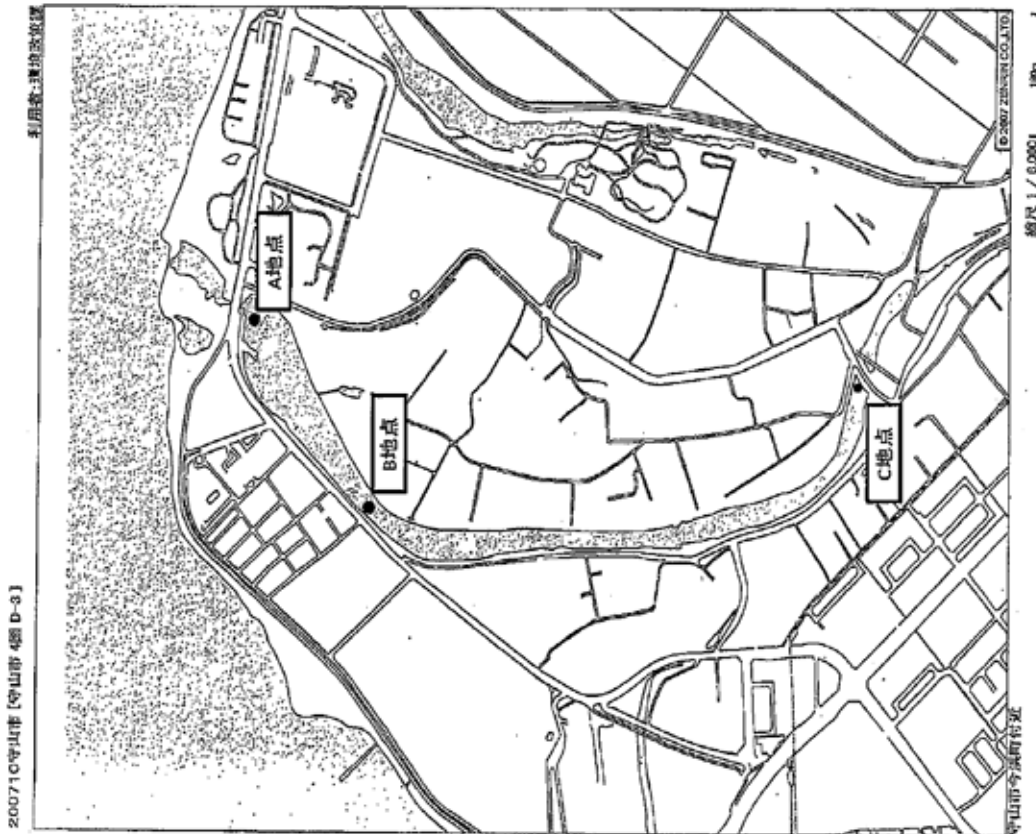
BOD (mg/L)	魚水	底生生物	備考
<u>2.5 以下</u>	イワナ、ヤマメ アブラハヤ、カジカ	ヒラタカゲロウ類 カワゲラ類、ナガレトビケラ類 ヘビトンボ、サワガニ ブラナリア	
<u>2.5～5</u>	ウグイ、カマツカ タナゴ類、シマドジョウ ヨシノボリ	コカゲロウ類 コガタジマトビケラ ヒタラドロムシ、ハバビロビル モノアラガイ、ヌマエビ	
<u>5～10</u>	フナ類、コイ タモロコ、モツゴ オイカワ、ドジョウ	ミズムシ、シマイシビル ヒメタニシ	弱い硫化水素臭はない
<u>10 以上</u>	普通はいない	イトミミズ、赤色ユスリカ ホシチヨウバエ、サカマキガイ	ほとんどの場合、強い硫化水素臭が認められる。
<u>さらに水が汚れると、目で見える生物はいなくなる。</u>			

採水場

新川採水地点



大川採水地点





## 夏休み大川自由研究室 体験教室記録帳 集約

開催日時：平成27年8月4日（火）午前8時30分～午後3時

場 所：美崎自治会館他

主な内容：・体験教室＝琵琶湖での漁業体験（小学5・6年生）

＝大川を屋形船で探検（小学3・4年生）

＝夏野菜の収穫体験（小学1・2年生）

- ・竹細工遊びや魚の手づかみ体験
- ・昼食（川魚料理、夏野菜カレー、流しそうめんなど）
- ・アジアの文化を学ぶ教室＝ブータンとミャンマーの踊り体験  
＝ミャンマーのお菓子の試食 など

参加者：小学生62人

（内訳：1年13人、2年4人、3年14人、4年11人、5年10人、6年10人）

### 【集約結果】

質問①

今日、見たり、聞いたり体験したことや場所で、友だちに教えてあげたい「よいこと」、「よいところ」はあったかな。3つ書いてね。

<1年生>

1 番 目	2 番 目	3 番 目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・なすがおおきかったこと。</li> <li>・たけのおもちャのこと</li> <li>・すいかを食べる</li> <li>・踊ったことが楽しかった</li> <li>・外国の踊り</li> <li>・ぶうたんとみゃんま～と一緒に踊ったこと</li> <li>・ぶうたんとみゃんまー一緒におどったこと</li> <li>・ミャンマーの踊りをしたこと</li> <li>・流しそうめんできゅうりやとまとが流れてきたこと</li> <li>・踊りをみました</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜がいっぱいとれたこと</li> <li>・おどり</li> <li>・魚をさわる</li> <li>・夏野菜をとったこと</li> <li>・野菜をとりにいったこと</li> <li>・畑でいろいろな野菜を収穫しました</li> <li>・きゅうりがものすごく大きかったこと</li> <li>・畑でいろいろな野菜を収穫しました</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きゅうりがいっぱいとれたこと</li> <li>・野菜のとりかた</li> <li>・流しそうめんを食べる</li> <li>・流しそうめんを食べた</li> <li>・竹とんぼの飛ばし方は難しいこと</li> </ul>

<2年生>

1 番目	2 番目	3 番目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・はたけでいっぱい野菜がとれたこと</li> <li>・友だちにここにあるよと声をかけた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここに野菜があると教えてもらった</li> <li>・きるところを教えてあげた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おどったこと</li> <li>・みんながここにあるっておしえてくれた</li> </ul>

<3年生>

1 番目	2 番目	3 番目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・魚がいっぱいいること</li> <li>・ふねにのって探検した</li> <li>・ダンス</li> <li>・流しそうめんをしたこと</li> <li>・覚えたおどり</li> <li>・カメがあみに引っかかったこと</li> <li>・流しそうめんがいっぱいとれたからうれしかった</li> <li>・カメがいっぱいた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア人とダンスをした</li> <li>・ブータンのおどりがおもしろかったからよかった</li> <li>・大川ではいろんな魚がとれること</li> <li>・おぼえたあいさつ</li> <li>・魚がいっぱいつれたこと</li> <li>・体けんしてかめをいっぱい見れたから2年におしえたい</li> <li>・すいかがおいしかった</li> <li>・かめもいがいといる事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大川があさいこと</li> <li>・流しそうめんがおいしかった</li> <li>・えびとかのいっぱいしかけがあった</li> <li>・かめがいっぱいたこと</li> <li>・さかなが多くてつれやすい</li> <li>・ブータン・ミャンマーのあいさつおどりをしたこと</li> <li>・すいかがおいしかった</li> <li>・さかながけっこうつれた</li> </ul>

<4年生>

1 番目	2 番目	3 番目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いっぱい魚がいた</li> <li>・いろんな魚に会えたこと</li> <li>・やさいかレーがおいしかった</li> <li>・夏休み大川自由研究室にいったこと</li> <li>・カメがいた</li> <li>・大川でカメがたくさんつれたこと</li> <li>・自然がいっぱい!</li> <li>・やさいかレーはみさきの野</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しかけがわかったこと</li> <li>・竹で遊んだ</li> <li>・流しそうめんキュウリやとまとを流してもおいしかったこと。</li> <li>・ブータンとミャンマーのあいさつがわかった</li> <li>・滋賀県のびわ湖や大川にしかいない魚(こゆうしゅ)がいっぱいいること</li> <li>・いろんな国のことを知れた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スイカがおいしかった</li> <li>・しかけが見れたこと</li> <li>・ブータンの人たちといっしょにおどった</li> <li>・大川にいったこと</li> <li>・ブルーギルがいた</li> <li>・魚のしゅるいを知れた</li> <li>・琵琶湖にもいろいろな歴史がある事</li> <li>・木で竹トンボや水てっぽうができる</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・菜だよということ</li> <li>・とあみ、さしあみ、もんどりをつかって魚やエビをとったこと</li> <li>・魚がいた</li> <li>・おどれる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さかながいた</li> <li>・魚をとったこと</li> <li>・ミャンマーのおどりをおどったこと</li> <li>・船にのれたこと</li> <li>・みさきのやさいのカレーはおいしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹とんぼのとばし方は逆向きにするととばない</li> <li>・りょうの道ぐがいっぱいあった</li> </ul>
--	---	---

<5年生>

1 番目	2 番目	3 番目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・びわ湖には外来種がたくさんいること</li> <li>・いろいろな魚がいる</li> <li>・スイカがおいしかった</li> <li>・おどり</li> <li>・いろんな魚を見つけたこと</li> <li>・魚の種類</li> <li>・魚がたくさんいた</li> <li>・ブータンのおどり</li> <li>・魚の種類は、みんなが知っているよりもいっぱいあるということ</li> <li>・ダンス</li> <li>・あみいっこで魚がいっぱいとれたこと</li> <li>・ブータンやミャンマーのおどりができたこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舟から見るけしきが見れること</li> <li>・いろんなしかけがあること</li> <li>・「えりのしくみを」教えてあげたり</li> <li>・地球上では、いろいろな国で、あいさつや、おどりが、全然違うということ</li> <li>・ミャンマーのおどり</li> <li>・外国のおどり</li> <li>・魚をとる道具（あみ）</li> <li>・船に乗って酔ったこと</li> <li>・びわこのこと</li> <li>・ライギョがいたこと</li> <li>・琵琶湖だけの魚がいる</li> <li>・ブータンとミャンマーのおどりとあいさつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹のおもちゃのこと。竹でも、いろいろなおもちゃが作れること</li> <li>・歴史のこと</li> <li>・メシがうまかった</li> <li>・歴史のこと</li> <li>・なし</li> <li>・りょうさんの仕事は大変ということ</li> <li>・がいらい漁の話</li> <li>・いろんな魚がいること</li> <li>・外来魚がみれること</li> </ul>

<6年生>

1 番目	2 番目	3 番目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブータンの挨拶</li> <li>・外来魚がいっぱいいること</li> <li>・あんまりなかった</li> <li>・「よし」というものでびわ湖を救える</li> <li>・漁体けんで、来魚だけど大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来魚し（カメも含む）は合わせて5種類</li> <li>・漁をできること</li> <li>・漁の体験ができること</li> <li>・いろんな魚がいた</li> <li>・いろんな魚がいた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブータンやミャンマーのダンス</li> <li>・えりのしかけ</li> <li>・外国のおどりやあいさつが知れたこと</li> <li>・おとながやさしかった</li> </ul>

<p>きな魚をとれたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•びわこの中がきれいだった</li> <li>•びわこの中がじみにキレイだった</li> <li>•漁に使うものを目の前で見ることが出来ること</li> <li>•外来魚くじょをできること</li> <li>•びわ湖に昔からいる魚は少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•おどりがたのしかったこと</li> <li>•ダンス</li> <li>•たけで遊びどうぐができること</li> <li>•おどり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•大人がやさしかった</li> <li>•外国の文化を知ることが、できること</li> <li>•ブータンとミャンマーのおどりは意外とかんたん</li> </ul>
--	--	---

質問②

大川や琵琶湖、様々な野菜が育つ畑がある美崎という地域の未来はどんなのかな。あなたの夢を教えてね。

<p>1年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•おみせやさん</li> <li>•川がきれいになってる</li> <li>•野菜がいっぱいとれるようになる</li> <li>•いろいろがんばる</li> </ul>
<p>2年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•はたけが大きくなっていると思う</li> <li>•これからもしぜんをのこってほしい</li> </ul>
<p>3年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•きれいな町</li> <li>•しぜんがきれいな美崎にしたい</li> <li>•今よりしぜんの多いうつくしいちいき</li> <li>•アジアのあいさつやおどりがみんながしってる地域にしたい</li> <li>•みさき全体がぼくの家になったらうれしい</li> <li>•かめとか魚とか野さいがいっぱいある美崎</li> <li>•自然がいっぱいへいわなみさきになってほしい</li> <li>•安ぜんなみさきにしてほしい</li> </ul>
<p>4年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•外来種がいなくなること、がんばる</li> <li>•大川の水がきれいになる</li> <li>•きれいな大川や琵琶湖になるようにしてフナやアユなどの魚がもっと住みやすい環境作りがしたい</li> <li>•大川にごみなどを捨てず、魚などを住みやすくする</li> <li>•みんな（すんでる人）がほこれるような、のどかできれいな町</li> <li>•いっぱい野菜が育つところ</li> <li>•有名なまち</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・びわこもきれいにする</li> <li>・大川をきれにして泳げるようにしたりさかながすみやすくする</li> <li>・ゆめは、けいさつかん</li> <li>・さかなが長く生きてほしい</li> </ul>
<p><b>5年生</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいなごみ1つもない琵琶湖。作物がよく育つところ</li> <li>・もっときれいになってる</li> <li>・畑がいっぱいいろいろな魚がすんでいる自然な地域。外来魚がいなくなる。いろいろな国の人がかんしんする地域。流しそうめんを食べる(山もり)</li> <li>・清潔でいろいろな魚がいて、植物が育ちやすい、とても住みやすい地域</li> <li>・未来がもっとよくなるためにいろいろがんばる</li> <li>・人が多くなる</li> <li>・未来も今よりも生産量がふえるようにしたい</li> <li>・これからも自然がのこってほしい</li> <li>・いろいろがんばる</li> <li>・もっと野菜や魚の生産量があがっている</li> <li>・外来魚や外来種が減ってほしい</li> <li>・外来魚が少なくなっていて、大川やびわ湖がきれいになっている</li> </ul>
<p><b>6年生</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々がんばる！</li> <li>・外来魚がない、きれいな琵琶湖</li> <li>・畑がいっぱい、野菜がさかんになる、一部とかいになる</li> <li>・今よりもっと野菜が育ち外来魚が減って自然がたくさんある美崎</li> <li>・美崎はゆたかだけど人がポイすてなどをして水もよごれているし、魚もへってきているから、人も動物も、魚も、くらしやすい未来にしたい</li> <li>・平和</li> <li>・平和が一番</li> <li>・水や空気がきれいで植物や生物がたくさんある美しい地域</li> <li>・大川と琵琶湖の水がきれいで畑もきれい</li> <li>・すこしでも琵琶湖をよくするためにできることは進んでやりたい</li> </ul>

## 大川自由研究室 記者提供資料

MORIYAMA MORIYAMA MORIYAMA MORIYAMA MORIYAMA

平成 27 年 7 月 31 日



### 守山市 記者提供 資料

～地域に触れ、学び、楽しみ 最高の夏の思い出を～  
恒例の『夏休み大川自由研究室』を開催！！

#### ●趣旨・目的

美崎自治会、京大大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所、立命館守山中学・高等学校、守山市で構成する「大川活用プロジェクト」では、市内北部を流れる準用河川大川を舞台とし、河川的环境保全とまちづくり活動に平成 23 年度から取り組んでいます。

「夏休み大川自由研究室」は、子どもたちがびわ湖や大川で体験学習をする取組であり、収穫体験やびわ湖、大川での乗船体験などで、**地域の自然に触れ、親しみ、楽しく学び、様々な人々と触れ合います。**今回は**ブータンとミャンマー**の方々を招いて**異文化交流**も行います。

●日 時 平成 27 年 8 月 4 日（火）午前 8 時 30 分から午後 3 時まで（受付は 8 時から開始）

●場 所 美崎自治会館（守山市木浜町 2761-35）ほか

#### ●主な内容とスケジュール

##### 体験教室（8:40～10:30）

- ・びわ湖での漁業体験（小学 5・6 年生）
- ・大川を屋形船で探検（小学 3・4 年生）
- ・夏野菜の収穫体験（小学 1・2 年生）



##### 竹細工遊びや魚の手づかみ体験（10:30～11:30）



##### 昼食（11:30～12:30）

川魚料理、夏野菜カレー、流しソーメンなど

##### アジアの文化を学ぶ教室（12:30～13:15）

- ・ブータンとミャンマーの踊り体験
- ・ミャンマーのお菓子の試食 など



##### 子ども発表会（13:15～15:00）



【件名】 平成 27 年度大川活用プロジェクト 4 月定例会議『美崎寄り合い』

---

1 日 時 平成 27 年 4 月 28 日(火) 19 時～21 時

2 場 所 美崎自治会会館

3 参加者

(1) 美崎自治会 伊藤自治会長他 8 名

(2) 京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏

(3) 立命館守山中学・高等学校 八木氏

(4) 守山市 美崎公園 中村指導員、  
地域振興課 坪内課長、井上係長、環境政策課 木村課長、臼井主事

4 会議概要

(1) 伊藤自治会長あいさつ

- ・前回に引き続き、ウッドデッキ整備に関する検討事項について意見交換したい。
- ・平成 27 年度の取組計画について確認したい。

(2) ウッドデッキ整備に関する意見交換

○琵琶湖とつながる水路の浚渫について

- ・25 年ほど前に草魚を放流したが、もし今も生息してれば、琵琶湖へ放たれてしまうのではないか。

→ (環境政策課・木村課長) 5 月 13 日に、県の学芸員の中村氏にお会いする機会があるので、その場で確認する。

○周辺企業との連携について

- ・湖岸振興会、ラフォーレ琵琶湖、ピエリ守山、シダックス、シルバー人材センター (菜の花やひまわりについて詳しい) との連携をとっていきべき

…デッキの詳細も含めたプロジェクトのビジョンを共有する場を設ける必要がある

→地域振興課できっかけ作りをする

○イベントの知恵出しについて

- ・ハマヒルガオ祭りとの連携してはどうか
- …花が咲かないため、ここ 2 年ほど開催できていない
- ・おうみんちの朝市をデッキでやるのはどうか
- …使用許可等の決まりの整備が必要になる

○釣り利用の対策について

- ・釣りは禁止すべきであるが、監視はどうするのか
- …一般客が常にいる状況を作れば抑止力が生まれ、釣り人も禁止を破らないのではないか

→・週 1 回ほど、イベントでデッキを使用していきたい

- ・駐車場やお茶を飲める場所があれば、より人が集まる

・県外からのバスツアーでのウォーキングなど、湖岸沿いを歩いている人が大川の方も歩いてもらえる工夫が必要

(3) 平成 27 年度取り組み計画について

○水草除去、法面除草及び河畔林整備について

- ・何らかの形で子どもにも参加してもらってはどうか（除草や植樹など）

○夏休み大川自由研究室について

- ・本年度に新しく行うこと

→昨年参加してもらった子どもを集めて意見をもらう（7月ごろ）

子どもたちに観察ノートを描いてもらう

○新川河畔林整備検討のための先進事例調査について

- ・バスの予約は環境政策課で行う（日程が決まり次第、自治会から連絡をもらう）

(4) 次回検討事項

- ・次回の寄り合いは、5月25日(月)19時から開催

- ・ウッドデッキの整備、夏休み大川自由研究室について意見交換する



【件名】 平成 27 年度大川活用プロジェクト 5 月定例会議『美崎寄り合い』

---

1 日 時 平成 27 年 5 月 25 日(月) 19 時～21 時

2 場 所 美崎自治会会館

3 参加者

(1) 美崎自治会 伊藤自治会長他 9 名

(2) 京大生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏

(3) 立命館守山中学・高等学校 八木氏

(4) 守山市 美崎公園 中村指導員、  
地域振興課 坪内課長、高山主任、環境政策課 臼井主事

4 会議概要

(1) 平成 27 年度の取組実績の確認

(2) 今後の取組内容とスケジュールについて

○変更事項

- ・ 湖南省の竹藪実例調査… 6 月 27 日→延期（農繁期のため）
- ・ ウッドデッキ活用ワークショップ… 9 月もしくは 10 月→11 月（選挙のため）
- ・ 大川フォーラム… 2 月 6 日→1 月 30 日

○ウッドデッキ活用ワークショップについて

- ・（地域振興課より）湖岸振興会にて、ラフォーレ琵琶湖と話したが、デッキの利活用や駐車場の利用については前向きであった。周辺も含めた全体の構想についても伝えた上で、今後について話を詰めた。

(3) その他

○八木氏より

- ・ サイテック部の卒業生が、立命館大学でボランティアサークルを作ったと聞いており、大川プロジェクトのバックアップもしてくれるそうである。
- ・ ウッドデッキ活用ワークショップにも参加してもらってはどうか。

○環境政策課より

- ・ 琵琶湖へ繋がる水路の浚渫について、草魚の件を県に確認したが、浚渫には問題ないという回答を得た。

(4) 次回検討事項

- ・ 次回の寄り合いは、6 月 30 日(火)19 時から開催
- ・ 夏休み大川自由研究室について意見交換する

【件名】 平成 27 年度大川活用プロジェクト 7 月定例会議『美崎寄り合い』

---

---

- 1 日 時 平成 27 年 7 月 15 日(水) 19 時～21 時
- 2 場 所 美崎自治会会館
- 3 参加者
  - (1) 美崎自治会 伊藤自治会長他 9 名
  - (2) 京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏
  - (3) 立命館守山中学・高等学校 八木氏
  - (4) 守山市 美崎公園 中村指導員、  
地域振興課 井上係長、環境政策課 木村課長、臼井主事
- 4 会議概要
  - (1) 伊藤自治会長あいさつ
    - ・夏休み大川自由研究室について話し合いたい。
  - (2) 日程変更について確認
    - ・湖南省実例調査 7 月 26 日 → 変更日は未定
    - ・デッキに関するワークショップ 10 月 25 日 → 11 月 21 日(土)
  - (3) 夏休み大川自由研究室について
    - 受付での班分けについて
      - ・1・2 年生、3・4 年生、5・6 年生の班分けとは別に、まとめのときは学年を混ぜて 3 グループに分ける
      - 受付の際に名札を 3 色に分ける
    - 体験教室について
      - ・それぞれの班にカメラを 1 台ずつ渡して、子どもの目線から写真を撮ってもらう。
      - その際は大人が使い方等をフォローする。
      - ・市職員からも 1 班 1 人ずつ出す
    - ミニ水族館について
      - ・在来種と外来種に分ける
    - 竹細工について
      - ・工作は怪我する可能性がある→遊び体験のみにする。
    - 異文化講座について
      - ・今年はミャンマーとブータンの方を招き、踊り体験やお菓子の試食を行う
    - まとめ&発表について
      - ・まとめる前に、撮影した写真の上映会をする
      - ・下敷き代わりにクリアファイルを用紙と一緒に配布する
      - ・まとめ方はまず各自で、
        - ①印象に残ったことを 3 つ、②友達に教えてあげたい良いところを記入し、グループごとに模造紙にまとめる。
      - 次回寄り合いまでに用紙の案を作成する(環境政策課)
  - (4) 次回検討事項
    - ・次回の寄り合いは、7 月 28 日(火)19 時から開催
    - ・引き続き夏休み大川自由研究室について意見交換する

【件名】 平成 27 年度大川活用プロジェクト 7 月定例会議『美崎寄り合い』

---

- 1 日 時 平成 27 年 7 月 28 日(火) 19 時～21 時
- 2 場 所 美崎自治会会館
- 3 参加者
  - (1) 美崎自治会 伊藤自治会長他 12 名
  - (2) 京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏
  - (3) 立命館守山中学・高等学校 八木氏
  - (4) 守山市 地域振興課 井上係長、環境政策課 木村課長、臼井主事
- 4 会議概要
  - (1) 伊藤自治会長あいさつ
    - ・翌週に迫っている夏休み大川自由研究室について、内容を詰めたい。
  - (2) 夏休み大川自由研究室について
    - 参加人数について
      - ・現在、61 名の申込みがある（昨年よりは少し少ない）
    - 活動内容説明について
      - ・資料を配布すると、体験学習中に邪魔になるので、模造紙等で説明する  
→自治会から市に説明資料のデータを送ってもらい、環境政策課で作成する
    - 体験教室について
      - ・漁業体験および大川探検は、どちらも約 20 名の子ども＋保護者が参加  
→ライフジャケット 60 着の準備（地域振興課）
    - ミニ水槽について
      - ・漁業体験で獲った魚を入れる
    - 缶バッチについて
      - ・6 案から 1 つを採用（背景：大川の写真、文字：赤）  
→当日までに 100 個を作成（環境政策課）
    - まとめ用紙について（案からの変更）
      - ・印象に残ったこと、友達に教えた良いところは 1 番目から 3 番目までを書いてもらう
      - ・最後に「美崎の未来（あなたの夢）」を書いてもらう
    - マスコミへの情報提供について
      - ・環境政策課で行う（7 月 31 日）
    - その他、全体を通して当日の役割の確認

【件名】 平成 27 年度大川活用プロジェクト 11 月定例会議『美崎寄り合い』

---

---

1 日 時 平成 27 年 11 月 24 日(火) 19 時～21 時

2 場 所 美崎自治会会館

3 参加者

(1) 美崎自治会 伊藤自治会長他 8 名

(2) 京大生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏

(3) 県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 廣瀬さん、辻さん

(4) 小林建設 北川氏、金森氏

(5) 守山市 地域振興課 井上係長、道路河川課 中嶋技師、環境政策課 臼井主事

4 会議概要

(1) ウッドデッキの施工について (道路河川課 中嶋技師)

- ・ 施工業者の紹介 (小林建設)
- ・ 施工内容の再確認

※工期の詳細はまだ確定していないため、決まり次第連絡する

(2) 新川を含むオープンミュージアムゾーンの整備について

○大川と同様に、今後の方向性や具体的なイメージについて、まずは地元の人たちの思いや意見を出す必要がある

- ・ 大川に比べて、新川には思い入れがある人が少ない

→まず現地を改めて見てみる。そうすれば何らかのイメージや思いは出てくる。

- ・ オープンミュージアムゾーンだけを切り取って考えるのではなく、大川ゾーンも含めた美崎全体の中でのオープンミュージアムゾーンについて考える。

○県立大学建築デザイン学科の関り方について

- ・ 美崎の地域そのものに関する事、当プロジェクトのこれまでの経緯、オープンミュージアムゾーンに対する地元の人たちの思い等を知った上で、提案や意見交換をする。

→まずはそれを知るために、資料の精読や現地の視察、寄合等の活動へ参加

○1月の大川フォーラムでは、大川ゾーンの総括だけでなく、オープンミュージアムゾーンの整備についても言及する。

(3) 11月21日に開催したワークショップについて

○第2回を開催し、今回出た意見をさらに深めていく

(4) 今後の予定について確認

- ・ 12月10日 午後7時 寄合 (大川フォーラムについて)
- ・ 1月11日 午後1時 湖南市の竹藪視察
- ・ 1月23日 午後 ウッドデッキ活用の第2回ワークショップ  
終了後 寄合 (大川フォーラムについて)
- ・ 1月30日 午後 大川フォーラム



【件名】 平成 27 年度大川活用プロジェクト 12 月定例会議『美崎寄り合い』

---

1 日 時 平成 27 年 12 月 10 日(木) 19 時～21 時

2 場 所 美崎自治会会館

3 参加者

- (1) 美崎自治会 伊藤自治会長他 8 名
- (2) 京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏
- (3) 県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 永井氏、他学生 8 名
- (4) 守山市 地域振興課 高山主任、環境政策課 木村課長、臼井主事

4 会議概要

(1) 新川を含むオープンミュージアムゾーンの整備について

○周辺視察（12 月 1 日実施）について、建築デザイン学科学生の感想

- ・美崎が持つ、農業風景や自然等のポテンシャルを活かすデザインの提案をしたい。
- ・竹林が整備されていないことがやはり気になる。
- ・周辺の商業施設等と美崎を結び付けられるような方法を考えたい。
- ・地元の人たちと一緒に「この地域をどうしたいのか」を考えていきたい。

○地元民としての思い

- ・これまで関わりが少なかったので、「ここを残したい」といった思いはあまり無いが、後世に誇りを持って受け継げるようにはしたい。

○市からの留意点

- ・美崎公園は、都市公園として市が管理しており、その敷地を整備するにあたっては「環境学習」、「観光」という観点が必要。

○その他意見等

- ・美崎公園で行われている行事が地元にはあまり知られていない。市からの留意点も含め、美崎公園に地元がどのように関わっていくかが課題である。
- ・ここに住む人には、「見返りを求めずに、自然に助け合える」という地域性がある。
- ・守山には「四季を通して行ってみたい、歩いてみたい」と思える場所は意外と少ない。美崎ならその場所になり得るはず。
- ・従来は「ビニルハウスは農業景観を崩す」という考え方があるが、美崎はそれを覆せるかもしれない。単なる「ショーケース」ではなく、「生きた農業景観」を創れるのではないか。

(2) デザイン学科の演習課題について

○永井氏より説明

大川周辺地域の詳細な調査・研究を行い、この場所にしかない唯一のオープンミュージアムを考え、ランドデザインのシナリオを提案する

○伊藤自治会長より

- ・「オープンミュージアム」という言葉を使っている経緯は、
  - ①地球市民の森や大川、新川、美崎公園、田畑など、多様な環境を活かしたい
  - ②この地域は人口が増加しており、子供たちが育つ場として活かしたいという思いがあるからである。
- ・考えたことがすぐに形にはならないかもしれないが、若い人のアイディアは、様々な人を動かす力になるはず。

○大学の主催で 2 月に行う発表会の候補日の決定・・・15、16、22、23 日

(3) 大川フォーラムの内容確認

- ・これまでの活動の総括
- ・ウッドデッキについて（ワークショップの内容含む）
- ・オープンミュージアムゾーンの整備について
- ・県立大学からの発表
- ・その他、立命館守山高校からの発表 等

(4) 今後の予定について確認

- ・ 12月28日 午前11時 伊藤自治会長、安藤氏、市の3者で打合せ  
（ワークショップおよび大川フォーラムについて）  
※場所：市役所
- ・ 1月11日 午後1時 湖南省の竹藪視察  
午後5時 寄合
- ・ 1月23日 午後 ウッドデッキ活用の第2回ワークショップ  
終了後 寄合（大川フォーラムについて）
- ・ 1月30日 午後 大川フォーラム

【件名】 平成 27 年度大川活用プロジェクト 1 月定例会議『美崎寄り合い』

---

- 1 日 時 平成 28 年 1 月 11 日(木) 16 時～18 時
- 2 場 所 美崎自治会会館
- 3 参加者
  - (1) 美崎自治会 伊藤自治会長他 8 名
  - (2) 京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏
  - (3) 守山市 地域振興課 坪内課長、高山主任、環境政策課 白井
- 4 会議概要
  - (1) 第 2 回デッキワークショップについて
    - 第 1 回で出た意見の確認
    - イベントを検討するにあたって
      - ・デッキの工事の様子がまだ見えない中で、イベントのことを先行して検討するのは難しいのではないかと。
      - 現時点では様子は見えないが、今後、まずは土嚢で工事区画内を囲って水を干あげさせる。その後、ある程度組み立てた資材を運び入れ、デッキを作る。
      - ・デッキの周辺の観客が集まれる場所の確保はどうするのか。
      - 案：①湖岸道路側の川岸にデッキを足し、湖岸道路との間のスペースを広げる  
②デッキ南側の川岸にある土地を利用する  
\*300 人分くらいのスペースは確保したい。
      - ・観客席の確保ができていない中でも、イベントの議論をすべきなのか。
      - どんなイベントをするのか、そのために何が必要なかを先に具体的に詰めていくことが大事。それをワークショップの場で行えばよい。デッキの工程は来年にもあるので、今からでも遅くはない。
    - 第 2 回へ向けた準備
      - ・デッキの大きさや、周辺の状況が分かる図面を、資料として参加者へ配布する。
      - ・第 1 回で出た意見の集計をする。
      - ①市作成の一覧表に「テーマ」の欄を設け、意見をテーマごとにグルーピングする  
テーマの種類：デッキを活かす魅力的なイベントの提案  
デッキを利活用するうえでの条件や課題  
北部地域の資源とデッキのコラボ策  
デッキの維持管理
      - ②そのテーマごとに人を振り分け議論する。
  - (2) 大川フォーラムについて
    - 今回はパネルディスカッションではなく、「提言」とし、一人 5 分程度で意見等を述べてもらい、最後に市長に総括していただく。
    - デッキワークショップの報告は市から行う。
    - 報告Ⅱ部での市からの報告の内容案
      - ・水質改善（導水）の進捗状況の報告
      - ・まるごと活性化プランと大川プロジェクト（デッキの設置等）との関係の説明
  - (3) 今後の予定の確認
    - ・ 1 月 23 日 13:30～16:00 ウッドデッキ活用の第 2 回ワークショップ  
終了後 寄合（大川フォーラムについて）
    - ・ 1 月 30 日 13:30～16:00 大川フォーラム（終了後に交流会）

【件名】 平成 27 年度大川活用プロジェクト 1 月定例会議『美崎寄り合い』

---

- 1 日 時 平成 28 年 1 月 23 日(土) 16 時～17 時
- 2 場 所 美崎自治会会館
- 3 参加者
  - (1) 美崎自治会 伊藤自治会長他 8 名
  - (2) 京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏
  - (3) 県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 永井氏、他学生 8 名
  - (4) 守山市 地域振興課 坪内課長、井上係長、高山主任、環境政策課 臼井主事
- 4 会議概要

大川フォーラムについて

  - (1) テーマ：「大川活用プロジェクト・第 2 ステージの展開」とする
  - (2) 報告
    - 美崎自治会
      - ・夏休み自由研究室の報告を主に、それに加えて、他の取組の報告をすることとする
      - ・自由研究室参加の子ども代表については、2 人に依頼している
    - 立命館守山高校サイテック部
      - ・水質プランクトンや底泥の研究を報告してもらう
      - ・サイテック部へは依頼済み
    - 守山市（親水デッキワークショップ）
      - ・報告内容は、各グループの発表のテープ起こしを参考にすると良い
      - ・安藤先生にもコメントをしてもらう
    - 県立大学建築デザイン学科
      - ・テーマを「美崎オープンミュージアムのコンセプトデザイン」に変更する
    - 時間配分  
美崎自治会：10 分、立命館高校：15 分、守山市(まる活)：5 分、  
守山市(親水デッキ)：5 分、県立大学：30 分
  - (3) 提言
    - テーマを「大川・新川、そして湖辺地域のこれからの魅力化への提言」に変更する
    - 提言者の確認  
立命館大学：濱野氏、立命館守山高校：八木先生、地域活動分野代表：葎本氏  
美崎公園：中村先生、商工会議所：松永専務理事  
(追加) 県立大学建築デザイン学科学生
  - (4) 資料準備について
    - 26 日までに地域振興課から安藤先生へデータを送付する
- 5 今後の予定の確認
  - ・ 1 月 26 日 10:00～ 県立大学のプレ発表会  
場所：県立大学 B-0 会議室
  - ・ 1 月 30 日 13:30～16:00 大川フォーラム（終了後に交流会）



## 第5回 大川フォーラム 開催要領

1. 開催日時 平成 28 年 1 月 30 日（土曜日）13 時 30 分から 16 時まで
2. 開催場所 美崎自治会館
3. 開催内容

### 1) テーマと主旨

テーマ：「大川活用プロジェクト・第 2 ステージへの展開を探る」

開催主旨：平成 27 年度 of 取組報告をしますとともに、平成 23 年度から始まった大川活用プロジェクトの取組を総括しつつ、新たな展開を図る上での課題を踏まえて今後の展開を考えます。

### 2) 内容とスケジュール

13:30 開会

13:40 第 1 部 平成 27 年度の各種活動報告

#### ① 「美崎自治会の取り組み」

- ・美崎自治会の取り組み、活動報告

報告：美崎自治会

- ・夏休み自由研究室」

報告：美崎自治会大川自然博物館研究会

夏休み大川自由研究室参加の子ども代表

#### ② 「立命館守山高等学校サイテック部の取り組み」

報告：立命館守山高等学校サイテック部

#### ③ 守山まるごと活性化の取り組み」

報告：守山市

第 2 部 今後の展開に向けた各種報告

#### ① 大川親水デッキのワークショップ結果報告」

報告：守山市

#### ② 「美崎オープンミュージアムのコンセプトデザイン」

報告：滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科

14:45 休憩

15:00 第 3 部 「大川・新川、そして、湖辺地域の魅力化に向けての提言」

提 言 者：立命館大学

教育・研究分野代表

地域活動分野代表

地域産業分野代表

参加者代表

コメンテーター：宮本和宏 守山市長

コーディネーター：安藤和雄 准教授

(京都大学生存基盤科学研究ユニット東南アジア研究所)

16:00 閉会

◎参加交流会（16 時 20 分から 17 時 30 分）

美崎自治会館和室にて 参加費：500 円

**参加費  
無料**

## 第5回 大川フォーラム

テーマ

～大川活用プロジェクト・第2ステージへの展開を探る～

美崎自治会、京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所、立命館守山中学校・高等学校、市で構成する大川活用プロジェクトでは、市内北部を流れる準用河川大川を舞台とし、**河川の環境保全とまちづくり活動**に取り組んでいます。このフォーラムでは、昨年8月に開催した「夏休み大川自由研究室」の成果など平成27年度の取り組みを報告するとともに、これまでの取り組みを総括し、参加者とともにこれからの展開を探ります。ぜひご参加下さい。

とき

平成28年1月30日(土)

ところ

美崎自治会館 (守山市今浜町 2761-35)

受付開始 (13:00～)

開会 (13:30)

報告 (13:40～)

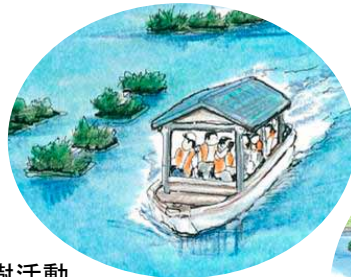
<第I部>

- ① 夏休み大川自由研究室と植樹活動
- ② 立命館守山高等学校サイテック部の取組
- ③ 守山まるごと活性化の取組

<第II部>

- ① 大川親水デッキのワークショップ結果報告 守山市
- ② 美崎オープンミュージアムのコンセプトデザイン

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科



提言 (15:00～)

テーマ：「大川・新川、そして湖辺地域のこれからの魅力化にむけての提言」

様々な分野の方から、上記テーマについての提言をいただきます。

●提言者

- ・学生などの若者や教育分野の従事者
- ・地域活動の実践者
- ・大川フォーラム参加者 など

●コメンテーター

宮本 和宏 (守山市長)

●コーディネーター

安藤和雄 (京都大学生存基盤科学研究ユニット・

主催：大川活用プロジェクト 東南アジア研究所 准教授)



問い合わせ 守山市地域振興課 電話：582-1165

## 編集後記

この編集後記をバンコクから関空に向かうタイ航空の機内で書き始めました。3月4日から15日にかけてブータンに滞在していました。大川フォーラムにも講師や学生が参加させてもらっているブータン王立大学セラブッチェ・カレッジとの学生交流と共同研究の打ち合わせとフィールド・ワークを行いました。ブータンが世界の注目を集めているのは、国の開発哲学として大乘密教哲学を背景にGNH（国民総幸福量）という理念を全面的に打ち出しているからです。日本では人々は経済が人間生活のすべてであるかのような錯覚をもっています。経済抜きには人間生活はたちゆかないのも事実ですが、ブータンではあえて、人間性の価値を共有することを国是としているのです。私が通うセラブッチェ・カレッジは東ブータンのタシガン県にあります。パロ国際空港から車で一泊二日あるいは二泊三日かかります。途中富士山の頂上ほどの峠を4つほど越えていきます。畑も田も家も山の斜面や尾根に拓かれています。農村景観は棚田と傾斜畑で延々とつづくのです。東ブータンでは過疎や耕作放棄畑の問題がこの10年間くらいで顕著になりつつあります。東ブータンの田舎は大きな曲がり角にあるのが現実です。京都の中山間で過疎と離農の日本の現実を学んでもらった後で、セラブッチェ・カレッジの講師や学生に、美崎の住民の皆さんが農業、漁業を基盤としてつくってきた景観やそれを維持、発展させていこうという姿勢を学ばせてもらっています。それはまさに経済ではなく、環境、文化、伝統との調和をキーワードとするブータンのGNHの理念による具体的な地域開発事業の事例となっているのです。美崎の住民の皆さん、大川活動プロジェクトの関係者の皆さんには、このことをぜひ頭の片隅においておいていただきたいのです。

平成27年度は大川活動プロジェクトにとっても大きな展開があった年となりました。大川ではデッキ建設がはじまり、新川の開発のあり方を考える取り組みも滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科の学生の皆さんが大川活用プロジェクトに新しく参加しました。守山まるごと活性化での役割もより明確となっています。大川活用プロジェクトの活動目標の一つの柱である美崎地域全体を対象とするオープンミュージアム構想が具体的に形を表しつつあるということになります。まさに、大川フォーラムのテーマである「第2ステージの展開を探る」年度ともなったのです。平成27年度活動報告書を手にとっていただければ、内容の多様さが一目瞭然であり、今後の活動のしっかりとした手応えをこの報告書が与えてくれています。

毎年の繰り返しですが、その年度の活動を整理し記録に残しておくことが、大川活用プロジェクトを粘り強く発展させる地道な計画づくりと、実践活動にとって大変重要となります。平成27年度大川活用プロジェクト活動報告書の出版により、未来にまた一歩踏み出せる喜びを皆さんとともに味わいたいです。大川フォーラムでの発表者、原稿を寄せていただいた執筆者の皆さん、編集に全面的に協力していただいたレカボラ編集舎の小野寺佑紀さんにも大変感謝いたします。平成27年度活動報告書を手にとられた皆様、是非、大川活用プロジェクトに対し今後とも関心を抱いていただき、ご協力を賜りますようよろしくお願い致します。

私を大川プロジェクトに導き、美崎の皆さんをはじめ関係者の皆さんとの縁をつくっていただき、大川活用プロジェクトの当初からの関係者の一人であり、一昨年度の大川フォーラムではお話をいただいた京都大学ならびに滋賀県立大学の名誉教授高谷好一先生が、3月11日、フィールドワークで訪れられていたインドのチャンディガルのホテルでご逝去されました。先生は洲本町のご出身で、現在も住民です。その縁もあり、大川活用プロジェクト、美崎地区の住民主体の活発な活動と発展を大変喜んでおられました。先生にはこれからも貴重なアドバイスを期待し、親しみのある飄々とした語り口の高谷節で、ぜひ、また機会をつくって大川プロジェクトでも話をうかがえればと思っていました。訃報は本当に残念であり、悲しいことです。これまでの先生の大川活用プロジェクトへのご指導に、関係者とともに感謝の気持ちをここに記し、先生のご冥福をお祈り申し上げます。合掌。

安藤和雄（2016年3月17日）

## 平成27年度大川活用プロジェクト活動報告書

発行日	平成28年3月31日
発行	大川活用プロジェクト 滋賀県守山市今浜町 2761-35 電話：077-585-1019 メール：(守山市役所) miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp
編集	安藤和雄
編集協力	小野寺佑紀（レカボラ編集舎）
出版協力	京都大学 地（知）の拠点事業（KYOTO未来創造拠点整備事業 — 社会変革期を担う人材育成） 京都大学東南アジア研究所実践型地域研究推進室 守山市役所



発行：  
大川活用プロジェクト  
滋賀県守山市今浜町 2761-35  
電話：077-585-1019  
メール：(守山市役所) miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp